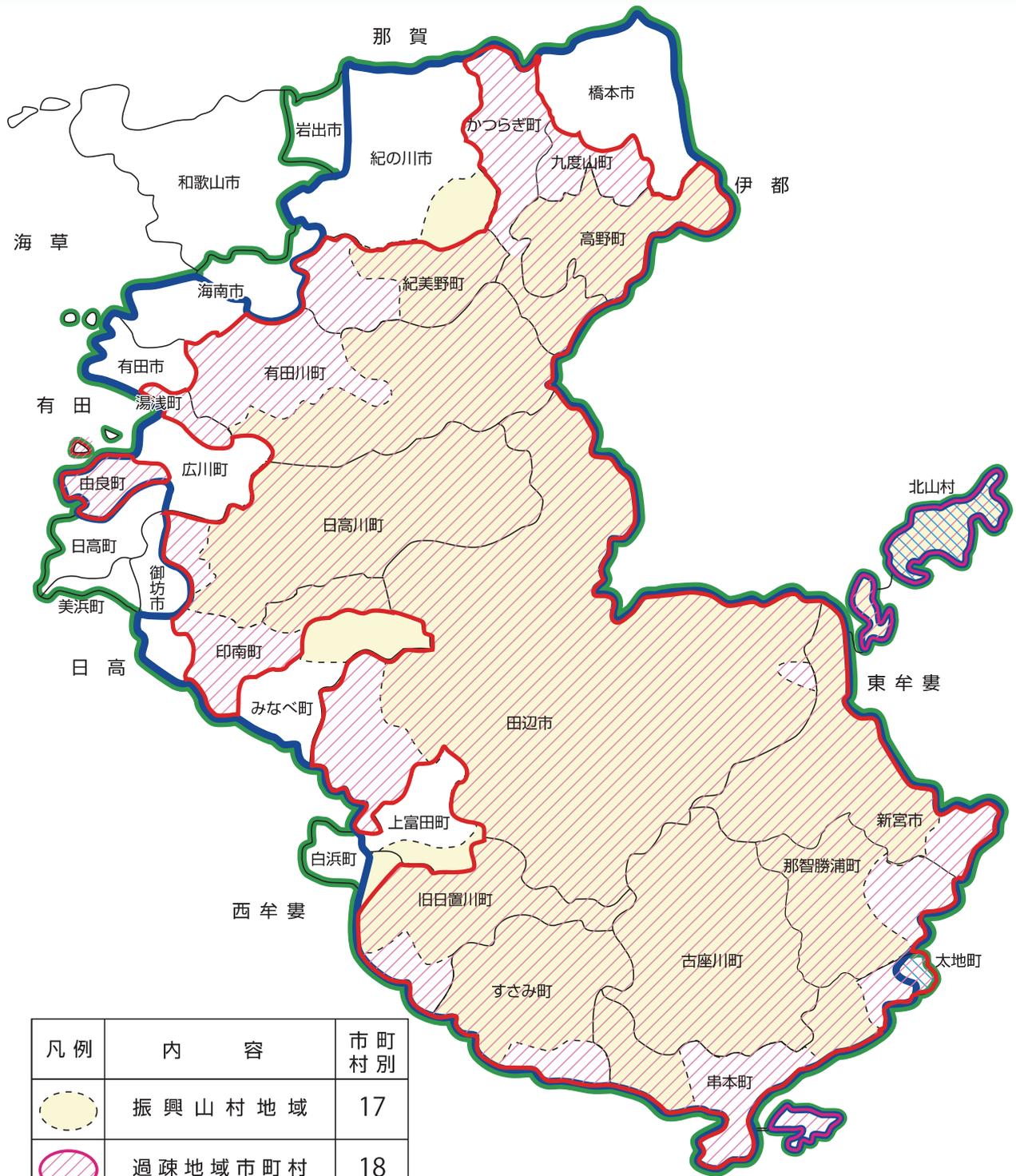


和歌山県の農林水産業

平成29年4月 和歌山県農林水産部

和歌山県の市町村



凡例	内容	市町村別
	振興山村地域	17
	過疎地域市町村	18
	農振法対象外地域	2
	特定農山村地域	25
	半島地域	29

平成29年4月1日現在

※特定農山村地域のうち、

海南市(旧下津町)、御坊市(旧名田村)、白浜町(旧北富田村、旧東富田村、旧日置川町)は一部指定

※過疎地域のうち、白浜町(旧日置川町)は一部指定

目 次

利用にあたって	1
I 和歌山県の農林水産業の特徴	3
1 和歌山県農林水産業の主要指標	3
2 和歌山県の農業の特徴	
1) 農業産出額の構成及び生産農業所得	4
2) 本県基幹農作物の全国シェア	5
3 和歌山県の林業の特徴	
1) 森林資源	6
2) 民有林(5条森林)の森林資材の概況	6
3) 林家の構成	6
4 和歌山県の水産業の特徴	
1) 漁業種類別漁獲量	7
2) 魚種別漁獲量	7
II 和歌山県の農林水産業の動向	8
1 農業部門	
1) 農業指標	8
2) 農業を担う人々	9
3) 耕地面積	10
4) 農業生産	12
5) 農業所得と農業産出額	27
6) 農業農村整備事業の基盤整備状況	30
2 林業部門	
1) 林業を担う経営体(林業経営体)	31
2) 森林資源・林業生産基盤	32
3) 林業生産	34
4) 林業所得と林業産出額	38
3 水産部門	
1) 水産業を担う人々	39
2) 水産業の基盤	40
3) 水産業の生産	41
4) 主な魚種別漁獲量・産出額の推移	42
III 農林水産関係施策を行っている主な課室	43

利用にあたって

I) 本資料は、公表されている最新の数値を基本に、和歌山県の農林水産業の概要を示したものです。

II) 公表されている数値の最新年次が全国と和歌山県で異なるなどのため、囲み掲載している「本県農林水産業の全国における位置」等、数値と本編の数値が一致しないものもあります。

III) 数値等の出典は図の下に () 書きで示しています。

ただし、「本県農林水産業の全国における位置」は農林水産省統計表に基づいています。また、単位未満の数値は四捨五入、あるいは下記のとおり四捨五入を行っている調査もあるため、内容の計は必ずしも合計と一致しません。

桁 数		7 桁 以 上	6 ～ 5 桁	4 ～ 3 桁	2 桁 以 下
四捨五入の方法		100の位を 四捨五入	10の位を 四捨五入	1 の位を 四捨五入	四捨五入 しない
例	四捨五入前	1,234,567	123,456	1,234	12
	四捨五入後	1,235,000	123,500	1,230	12

IV) 本資料で使われている主な統計用語は、次のとおりです。

(1) 農家とは……………経営耕地面積が10アール以上であるか又は過去1年間の農産物販売金額が15万円以上あるかのどちらかの要件を満たしている世帯。

(2) 販売農家とは………経営耕地面積30アール以上又は農産物販売金額50万円以上の農家。

単一経営農家 農産物の1位部門の販売金額が全体の80%以上を占める農家

複合経営農家 単一経営以外の農家で1位部門の販売金額が農産物総販売額の60%未満の農家

準単一複合経営農家 複合経営のうち1位部門の販売金額が農産物総販売額の60%以上80%未満の農家

(3) 自給的農家とは……………経営耕地面積30アール未満でかつ農産物販売金額50万円未満の農家。

利用にあたって

- (4) 基幹的農業従事者とは…自家農業に主として従事した世帯員のうち、普段農業に従事することを主としている者。
- (5) 農業専従者とは……………自家農業に従事している者であり、自家農業に従事した日数が150日以上の方。
- (6) 農家所得 = 農業所得 (農業粗収益から農業経営費を差し引いたもの) + 農外所得 (農外収入から農外収入をあげるために要した費用を差し引いたもの)
- (7) 生産農業所得 = 農業総産出額 × 所得率 + 農業生産に関わる経常補助金
- (8) 農業産出額とは……………農業生産活動による最終生産物の総生産額であり、農産物別生産数量に農産物別農家庭先価格を乗じて算出したもの。都道府県を推計単位としている。
- (9) 林業経営体とは……………次のいずれかに該当する事業を行う者。
① 権原に基づいて育林又は伐採を行うことができる山林の面積が3 ha以上の林業
② 委託を受けて行う育林若しくは素材生産又は立木を購入して行う素材生産の事業
- (10) 林業就業者とは……………15歳以上で特定の1週間の間に林業に従事した者。
- (11) 上記のうち主として林業に就業している者とは……主に勤務や自営により林業の仕事をしていた場合。
- (12) 生産林業所得 = 林業産出額 × 所得率
- (13) 漁業経営体とは …………… 過去1年間に利潤又は生活の資を得るために、生産物を販売することを目的として、海面において水産動植物の採捕又は養殖の事業を行った世帯又は事業所をいう。
ただし、過去1年間における漁業の海上作業従事日数が30日未満の個人経営体は除く。

個人経営体 個人で漁業を自営する経営体。
- (14) 漁業就業者とは……………満15歳以上で過去1年間に漁業の海上作業に30日以上従事した者。
- (15) 漁業産出額とは……………漁業生産活動による最終生産物の総生産額であり、漁業・養殖業の魚種別生産量に魚種別産地市場価格等乗じて算出したもの。

I 和歌山県の農林水産業の特徴

1 和歌山県農林水産業の主要指標

		農 業		林 業		水 産 業				
担 う 人 々	農 家	平 ^{27.2.1} 29,713	戸 100.0%	林 家	平 ²⁷ 11,113					
	販 売 農 家	平 ^{27.2.1} 20,352	68.5%	林 業 経 営 体	平 ²⁷ 1,240	漁 業 経 営 体	平 ²⁵ 2,033			
	自 給 農 家	平 ^{27.2.1} 9,361	31.5%			う ち 個 人 経 営 体	平 ²⁵ 1,976			
	専 業 農 家	平 ^{27.2.1} 9,732	32.8%							
	一 種 兼 業	平 ^{27.2.1} 2,752	9.3%							
	二 種 兼 業	平 ^{27.2.1} 7,868	26.5%							
	基 幹 的 農 業 従 事 者	平 ^{27.2.1} 32,500	人	林 業 就 業 者	平 ²² 1,145	漁 業 就 業 者	平 ²⁵ 2,907			
	農 業 専 従 者 (販 売 農 家)	平 ^{27.2.1} 29,888		う ち 主 として 林 業 に 就 業 して いた 者	916	う ち 自 営 漁 業 就 業 者	平 ²⁵ 1,979			
基 盤	耕 地	平 ²⁷ 33,700	ha 100.0%	森 林 面 積	平 ^{28.4.1} 361,371	漁 船	平 ²⁸ 4,792	隻 100.0%		
	水 田	平 ²⁷ 9,870	29.3%	民 有 林	平 ^{28.4.1} 343,877	ジ ー ゼ ル	平 ²⁸ 3,188	66.5%		
	樹 園 地	平 ²⁷ 21,400	63.5%	人 工 林	平 ^{28.4.1} 208,907					
	普 通 畑	平 ²⁷ 2,440	7.2%	天 然 林	平 ^{28.4.1} 129,653					
	耕 地 利 用 率	平 ²⁷ 90.8	%	人 工 林 ha 当 蓄 積	平 ^{28.4.1} 387	m ³				
所 得	農 家 所 得 一 戸 当 り	平 ²⁶ 2,263	千 円 100.0%							
	農 業 所 得	平 ²⁶ 1,249	55.2%							
	農 外 所 得	平 ²⁶ 1,014	44.8%							
	生 産 農 業 所 得	平 ²⁷ 336	億 円	生 産 林 業 所 得	平 ²⁶ 1,990	百 万 円				
産 出 額	農 業 産 出 額	平 ²⁷ 1,011	億 円 100.0%	林 業 産 出 額	平 ²⁷ 3,510	百 万 円 100.0%	漁 業 産 出 額	平 ²⁷ 16,032	百 万 円 100.0%	
	米	平 ²⁷ 76	7.5%	木 材	平 ²⁷ 1,870	53.3%	魚 類	平 ²⁷ 6,999	43.7%	
	果 実	平 ²⁷ 627	62.0%	木 炭	平 ²⁷ 650	18.5%	水 産 動 物 類 (海 産 哺 乳 類 を 含 む)	平 ²⁷ 2,040	12.7%	
	う ち み か ん	平 ²⁷ 277	28.9%	そ の 他 特 用 林 産 物	平 ²⁷ 990	28.2%	貝 類	平 ²⁶ 164	1.0%	
	う ち う め	平 ²⁷ 103	10.8%					海 藻 類	平 ²⁶ 148	0.9%
	野 菜	平 ²⁷ 162	16.0%					海 面 養 殖	平 ²⁶ 6,681	41.7%
	花 き	平 ²⁷ 58	5.7%							
	畜 産	平 ²⁷ 52	5.1%							

〔利用上の注意〕

農家調査は販売農家を抽出単位とし、センサスで確定された経営組織区分と県内農業地域に基づき部分母集団を設定した上で、部分母集団別に系統抽出された農家を対象とする標本調査であるため、その調査結果は推計による県計値となる。

(農林業の平成27年2月1日現在の数値は、2015年農林業センサスより)

(水産業を担う人々の数値は2013年 漁業センサス、漁船の数値は「県漁船統計表」より)

2 和歌山県の農業の特徴

1) 農業産出額の構成及び生産農業所得

和歌山県の農業産出額の構成は全国・近畿とは大きく異なり、果実の構成比が62.0%と半分以上を占め果樹農業に特化している。

全 国 畜産>野菜>米 >果実>花き

近 畿 野菜>米 >畜産>果実>花き

和歌山 果実>野菜>米 >花き>畜産

単位：億円、%

平成27年	和歌山県		近 畿		全 国		全国シェア	順 位
	金額①	構成比	金 額	構成比	金 額②	構成比	(①/②)	
農業産出額	1,011	100	4,673	100	87,979	100	1.1	31
米	76	7.5	1,151	24.6	14,994	17.0	0.5	42
野 菜	162	16.0	1,225	26.2	23,916	27.2	0.7	36
果 実	627	62.0	822	17.6	7,838	8.9	8.0	3
花 き	58	5.7	185	4.0	3,529	4.0	1.6	20
畜 産	52	5.1	1,027	22.0	31,179	35.4	0.2	44
そ の 他	36	3.6	262	5.5	6,524	7.4	0.6	32
生産農業所得	336		1,753		32,892		1.0	32
農業産出額に占める 生産農業所得の割合	33.2		37.5		37.4			

(平成27年生産農業所得統計)

2) 本県基幹農作物の全国シェア（全国5位以内）

果樹ある王国「わかやま」

平成27年産出額全国順位

みかん 1位（全国シェア 18.4%）

うめ 1位（全国シェア 58.9%）

かき 1位（全国シェア 21.3%）

もも 3位（全国シェア 9.5%）

単位：億円、%

平成27年 農作物名	産出額		全国シェア	1位	2位	3位	4位	5位
	和歌山県 (億円)	全 国 (億円)						
みかん	277	1,505	18.4	和歌山	静岡	愛媛	熊本	佐賀
うめ	103	175	58.9	和歌山	群馬	山梨	神奈川	三重
かき	86	403	21.3	和歌山	奈良	福岡	岐阜	愛知
えんどう	26	217	12.0	鹿児島	和歌山	愛知	北海道	福島
スターチス	19	51	37.3	北海道	和歌山	長野	千葉	熊本
いちじく	10	71	14.1	愛知	和歌山	福岡	兵庫	大阪
もも	49	518	9.5	山梨	福島	和歌山	岡山	長野
キウイフルーツ	13	100	13.0	愛媛	福岡	和歌山	神奈川	静岡
すもも	10	78	12.8	山梨	長野	和歌山	山形	福岡
ししとう	3	67	4.5	高知	千葉	和歌山	徳島	山形
いよかん	2	68	2.9	愛媛	佐賀	和歌山	山口	愛知
ガーベラ	3	48	6.3	静岡	福岡	千葉	和歌山	愛知

※全国で産出額が50億円以上（花きについては30億円以上）の品目で、本県が5位以内のもの（平成27年生産農業所得統計）

※本編での「えんどう」とは、うすいえんどう、きぬさやえんどう、オランダを合算したものである。

3 和歌山県の林業の特徴

森林資源の概況

2012年現在の和歌山県の森林面積は363,041ha、森林率は77%で全国第7位。その内、民有林面積は345,566haで95%を占める。なお、民有林は、個人有林や会社有林などの私有林と、県有林や市町村有林などの公有林で構成される。

林家

2015年現在の林家数は11,113戸であるが保有林5ha以下の林家が全体の70.4%を占める。保有山林規模100ha以上の林家では、林家数の1.1%を占めるにすぎないが、保有面積で42.1%を占めている。

1) 森林資源 ～民有林を主とした森林資源の維持造成～

	全 国 %	和歌山 %	順位	全 国 順 位 (上位5道府県)				
				1位	2位	3位	4位	5位
森 林 率	67.3	76.8	7位	高知	岐阜	長野	島根	山梨
人 工 林 率	41.0	60.4	10位	佐賀	高知	愛知	福岡	三重
国 有 林 率	30.6	4.8	43位	青森	北海道	山形	秋田	群馬
民 有 林 率	69.4	95.2	5位	山梨	大阪	京都	山口	和歌山

(林野庁計画課「森林資源の現況」平成24.3.31現在)

2) 民有林(5条森林)の森林資源の概況 ～人工林の蓄積は、全国屈指の資源量～ 単位：千ha、千m³

	全 国	和歌山	順位	全 国 順 位 (上位5道府県)				
				1位	2位	3位	4位	5位
人 工 林 面 積	7,949	209	15位	北海道	岩手	長野	岐阜	高知
人 工 林 蓄 積	2,571,471	77,097	15位	北海道	高知	岩手	福島	熊本
うちすぎ	1,564,468	37,147	19位	福島	秋田	高知	大分	宮崎
うちひのき	573,774	38,480	3位	高知	岐阜	和歌山	愛媛	熊本

(林野庁計画課「森林資源の現況」平成24.3.31現在)

【参考】北海道の人工林は、からまつ・とどまつ・えぞまつを中心とした資源構成。

※5条森林とは、森林法第5条第一項に基づく地域森林計画の対象となっている森林をいう。

3) 林家の構成 ～小規模林家による森林所有と大規模森林所有者による林業経営～ 保有山林面積規模別林家数と面積 (和歌山県) 単位：戸、ha、%

	累 計	1～5	5～10	10～20	20～50	50～100	100以上
林 家 数	11,113	7,821	1,540	920	560	149	123
構成比	100	70.4	13.9	8.3	5.0	1.3	1.1
面 積	110,165	16,742	9,987	11,647	15,711	9,665	46,413
構成比	100	15.2	9.1	10.6	14.2	8.8	42.1

(2015年農林業センサス)

(注記)

※本表における林家とは、保有山林面積が1ha以上の世帯をいう。

保有山林面積規模別林家数と面積 (全国) 単位：戸、ha、%

	累 計	1～5	5～10	10～20	20～50	50～100	100以上
林 家 数	828,973	616,687	110,944	59,650	31,330	6,715	3,647
構成比	100	74.4	13.4	7.2	3.8	0.8	0.4
面 積	5,174,793	1,293,698	722,016	768,328	876,572	432,885	1,081,293
構成比	100	25.0	14.0	14.8	16.9	8.4	20.9

(注記)

※本表における林家とは、保有山林面積が1ha以上の世帯をいう。

(2015年農林業センサス)

4 和歌山県の水産業の特徴

本県の主な漁業生産の全国シェア

南北に長いリアス式海岸線を擁する和歌山県では、各地で沿岸・沖合漁業を中心に多種多様な漁業が営まれている。

1) 漁業種類別漁獲量

単位：トン、%

平成27年 区分	漁業種類別 漁獲量		全 国 シェア	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
	和歌山県	全 国											
沿岸まぐろ はえ縄	221	5,532	4.0%	宮 崎	沖 縄	宮 城	岩 手	青 森	和歌山	高 知	千 葉	北海道	三 重
沿岸かつお 一本釣	61	10,746	0.6%	高 知	愛 媛	三 重	鹿 児 島	沖 縄	宮 崎	徳 島	和歌山	神 奈 川	

2) 魚種別漁獲量

単位：トン、%

平成27年 区分	魚種別漁獲量		全 国 シェア	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
	和歌山県	全 国											
いせえび	166	1,199	13.8%	三 重	和歌山	千 葉	静 岡	徳 島	宮 崎	長 崎	鹿 児 島	高 知	東 京
たちうお	728	6,953	10.5%	愛 媛	大 分	和歌山	広 島	長 崎	兵 庫	徳 島	熊 本	千 葉	宮 崎
むろあじ類	2,296	14,837	15.5%	長 崎	宮 崎	和歌山	鹿 児 島	高 知	兵 庫	愛 媛	静 岡	三 重	大 分
い さ き	207	4,149	5.0%	長 崎	福 岡	山 口	三 重	島 根	高 知	和歌山	大 分	愛 媛	千 葉
うるめいわし	2,103	97,794	2.2%	長 崎	宮 崎	三 重	愛 媛	鹿 児 島	高 知	島 根	熊 本	和歌山	大 分
養殖くろ まぐろ	1,045	14,825	7.0%	長 崎	鹿 児 島	高 知	三 重	和歌山	大 分	愛 媛			
養殖まだい	1,561	63,605	2.5%	愛 媛	熊 本	三 重	高 知	長 崎	和歌山	鹿 児 島	宮 崎	静 岡	大 分
内水面 養殖あゆ	984	5,084	19.4%	愛 知	和歌山	岐 阜	滋 賀	栃 木	徳 島	宮 崎	静 岡	熊 本	大 分

注 養殖まだいについては、千葉、東京、大阪、兵庫、山口、福岡、沖縄が秘密保護のため順位に含まれていない。

注 養殖くろまぐろについては、京都、山口、熊本、沖縄が秘密保護のため、順位に含まれていない。

注 内水面漁業養殖あゆについては、北海道、青森、宮城、福島、東京、新潟、富山、石川、福井、兵庫、奈良、鳥取、島根、香川、愛媛、高知、福岡が秘密保護のため順位に含まれていない。

II 和歌山県の農林水産業の動向

1 農業部門

1) 農業指標

本県の総農家数は29,713戸、うち販売農家数20,352戸である。販売農家のうち専兼別の比率は専業47.8%、1種兼業13.5%、2種兼業38.7%で兼業農家の比率がやや高い。(2015年「世界農林業センサス」結果より) 耕地面積は33,700haであり、その利用形態は水田29.3%、樹園地63.5%、普通畑7.2%である。農業産出額は10,061千万円(構成比:米7.6% 果実62.3% 野菜16.1% 花き5.7% 畜産4.9%)

	平成27年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
総農家	戸 29,713	% 100.0	戸 6,207	戸 4,850	戸 3,686	戸 4,419	戸 5,142	戸 4,384	戸 1,025
販売農家	20,352	(100.0)	3,866	3,396	2,349	3,525	3,944	2,892	380
専業	9,732	32.8 (47.8)	1,725	1,654	998	1,805	1,872	1,446	232
1種兼	2,752	9.3 (13.5)	366	446	289	690	585	355	21
2種兼	7,868	26.5 (38.7)	1,775	1,296	1,062	1,030	1,487	1,091	127
	平成27年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
耕地面積	ha 33,700	% 100.0	ha 6,122	ha 5,373	ha 3,935	ha 5,768	ha 6,422	ha 5,164	ha 919
水田	9,870	29.3	2,585	1,885	972	524	2,020	1,272	608
樹園地	21,400	63.2 (100.0)	2,919	3,282	2,816	5,010	3,633	3,601	130
みかん	7,800	(36.4)	1,818	825	226	3,882	361	680	6
はっさく	999	(4.7)	8.3	546	70	122	150	25	3
うめ	5,540	(25.9)	109	182	188	53	2,522	2,482	13
もも	767	(3.6)	46	585	135	1	0	0	0
かき	2,690	(12.6)	212	637	1,818	10	9	2	3
普通畑	2,440	7.2	604	210	149	243	769	288	181
	平成27年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
農業産出額	千万円 10,110	% 100.0	千万円 1,528	千万円 1,777	千万円 1,192	千万円 2,273	千万円 1,939	千万円 1,117	千万円 178
米	760	7.5	236	149	68	36	153	94	24
果実	6,270	62.0	842	1,187	861	1,804	753	804	18
野菜	1,620	16.0	332	298	112	72	709	66	28
花き	580	5.7	21	89	23	80	251	86	22
畜産	520	5.1	37	57	114	181	23	26	55

※ ラウンドしているため、各数値の積上げが、合計と一致しない場合があります。

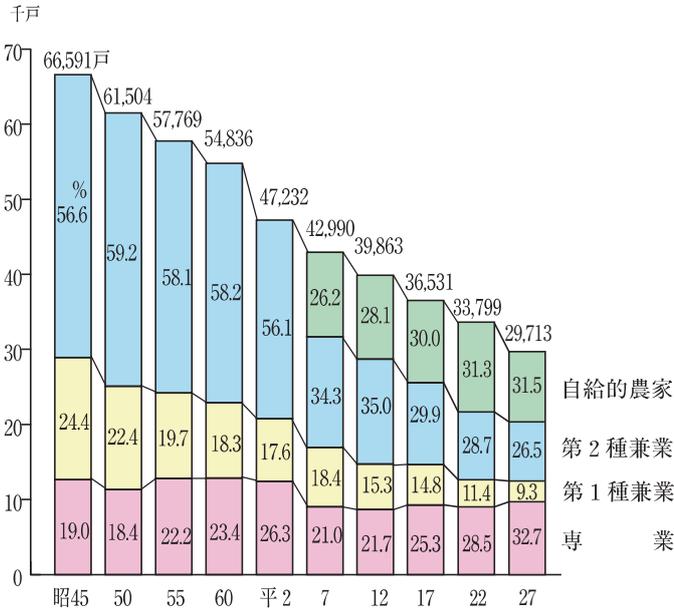
※ 「χ」は、統計法に基づく秘密保護のため、公表されていないものです。

(2015年世界農林業センサス・農林水産統計年報・市町村別統計検討協議会調べ)

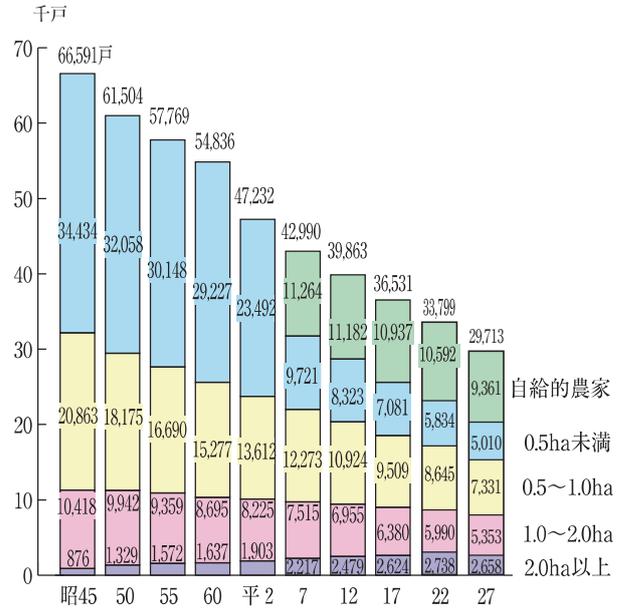
2) 農業を担う人々

平成27年の農家戸数は29,713戸で減少傾向が続いている。経営規模が1ha未満の農家が73.0%を占める。年齢別の基幹的農業従事者では60歳以上の占める割合が72.9%と増加してる。平成7年以降、新規就農者数は増加傾向にある。

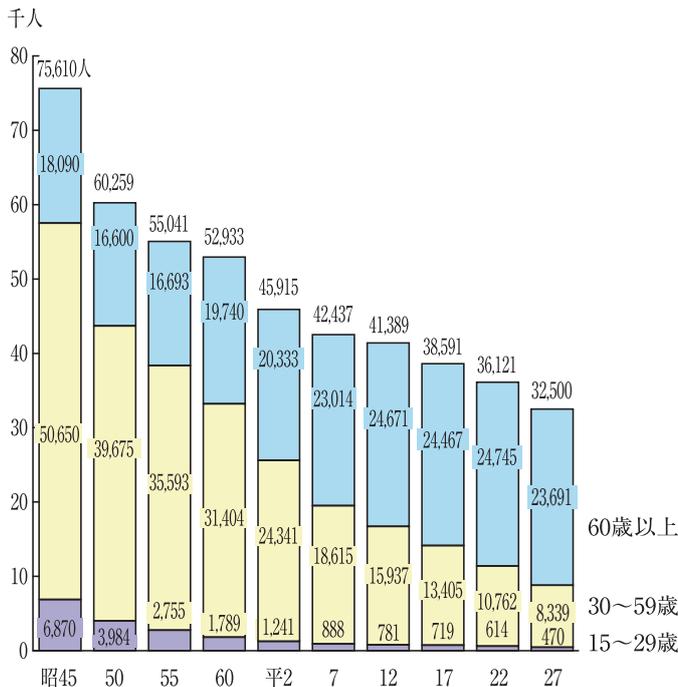
農家数の推移



経営規模別農家数の推移



基幹的農業従事者数（年齢別）の推移

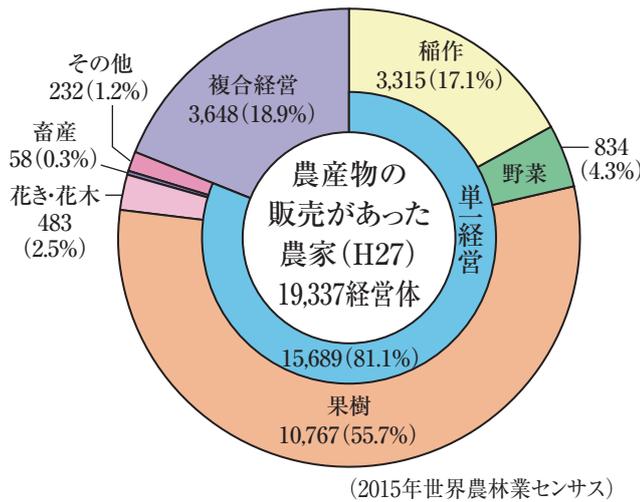


〔平27〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	実数	実数	順位	シェア (%)	県名	県名	県名
総農家数	2,155,082	29,713	35	1.4	長野	茨城	兵庫
販売農家数	1,329,591	20,352	29	1.5	茨城	新潟	福島

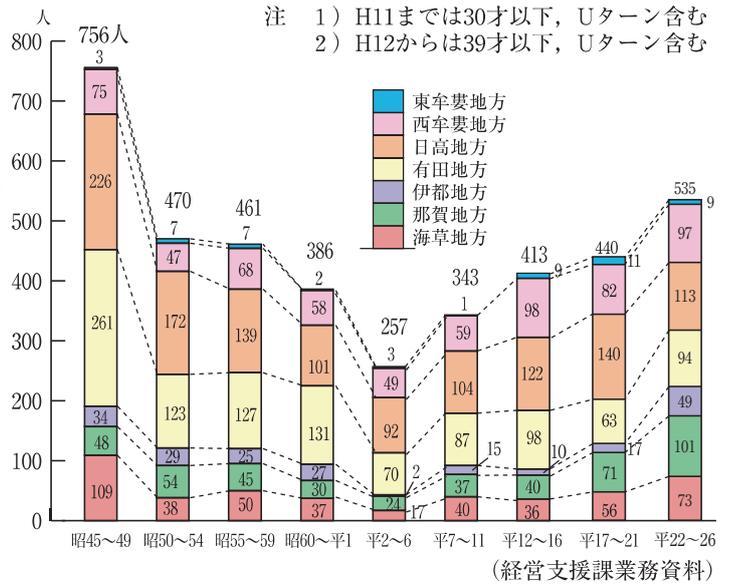
(2015年世界農林業センサス)

※本調査は、平成8年より調査対象が変更（総農家→販売農家）されていますので、ご利用の際は、ご注意ください。

農業経営組織別経営体数（平成27年）



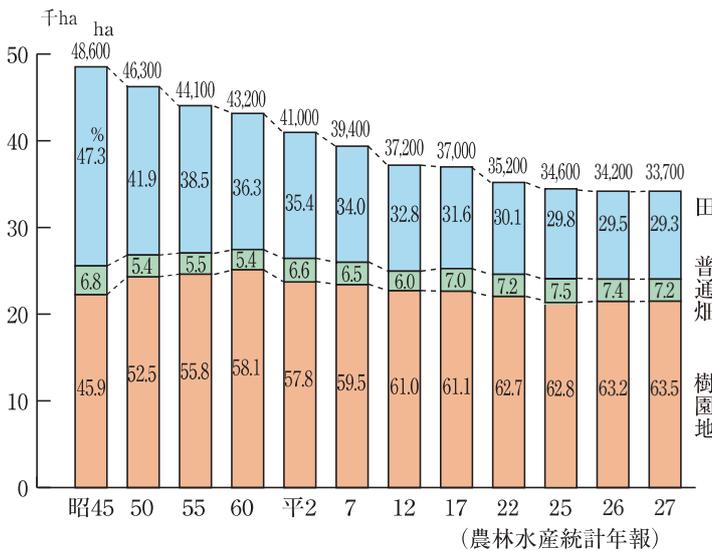
新規就農者数の推移



3) 耕地面積

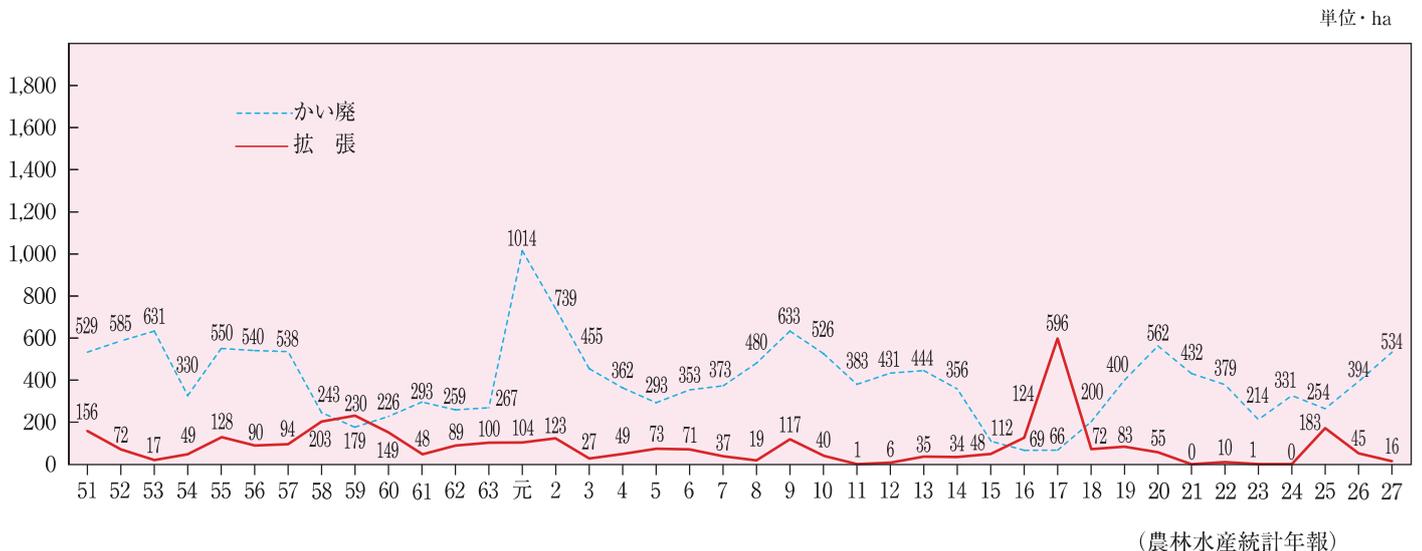
耕地面積は減少傾向にあるなかで樹園地の比率が高まっている。
施設面積は平成9年の909ha(耕地面積の2.3%)をピークに減少している。

田畑別耕地面積の推移

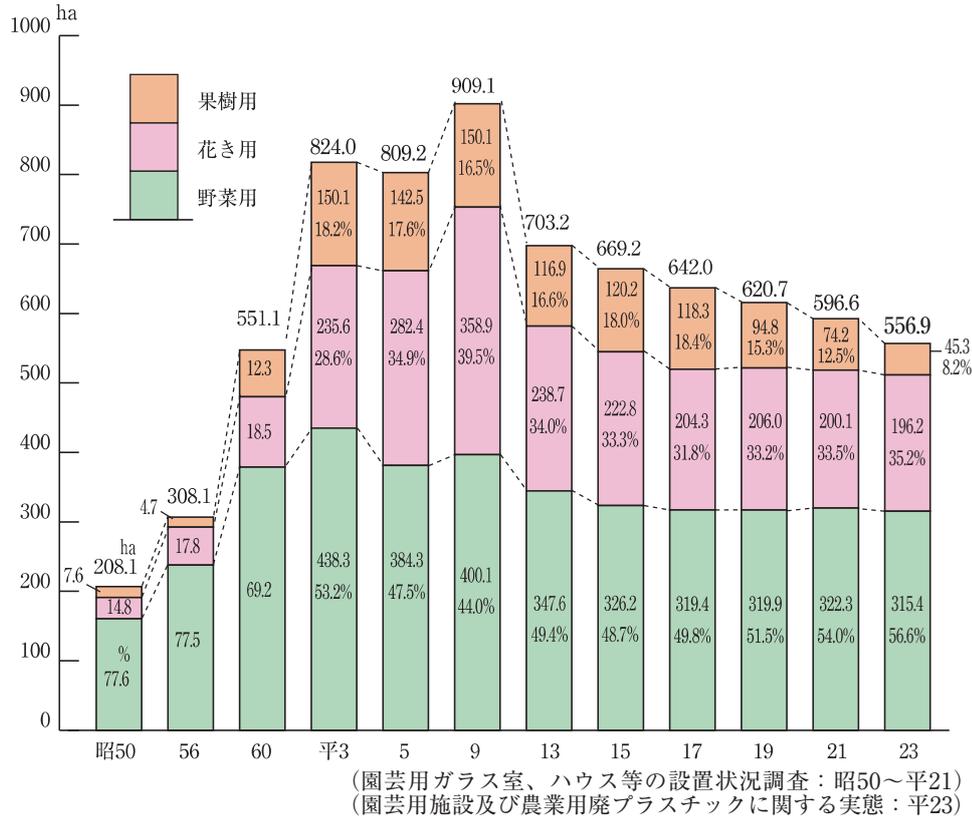


[平27]	耕地面積						
	全国	和歌山県	順位	シェア(%)	1位	2位	3位
耕地面積合計(ha)	4,496,000	33,700	38	0.7	北海道	新潟	茨城
田	2,446,000	9,870	42	0.4	北海道	新潟	秋田
畑	2,050,000	23,900	20	1.2	北海道	鹿児島	青森

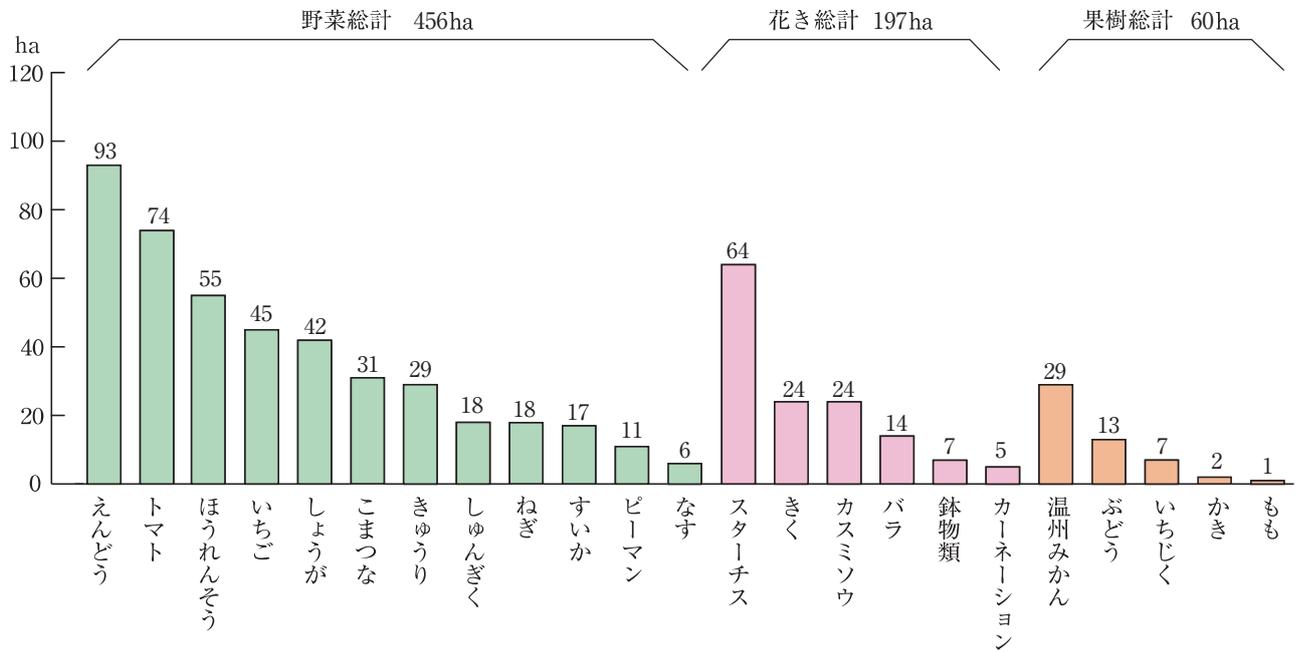
耕地の拡張・かい廢の推移



施設設置面積の推移



主要品目別施設栽培延面積（平23）



施設園芸作付延面積の推移

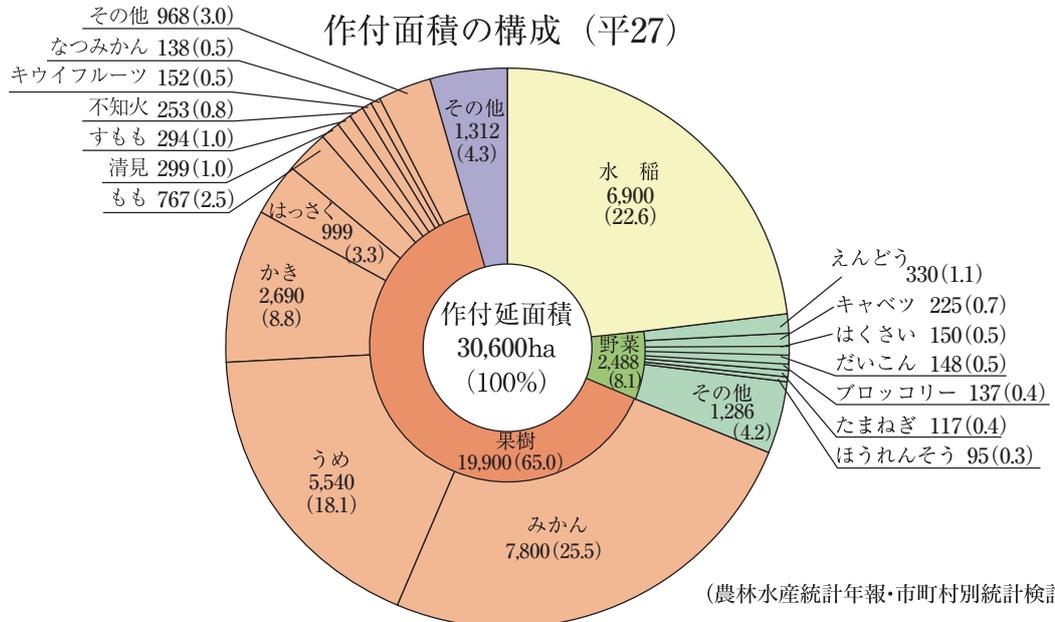
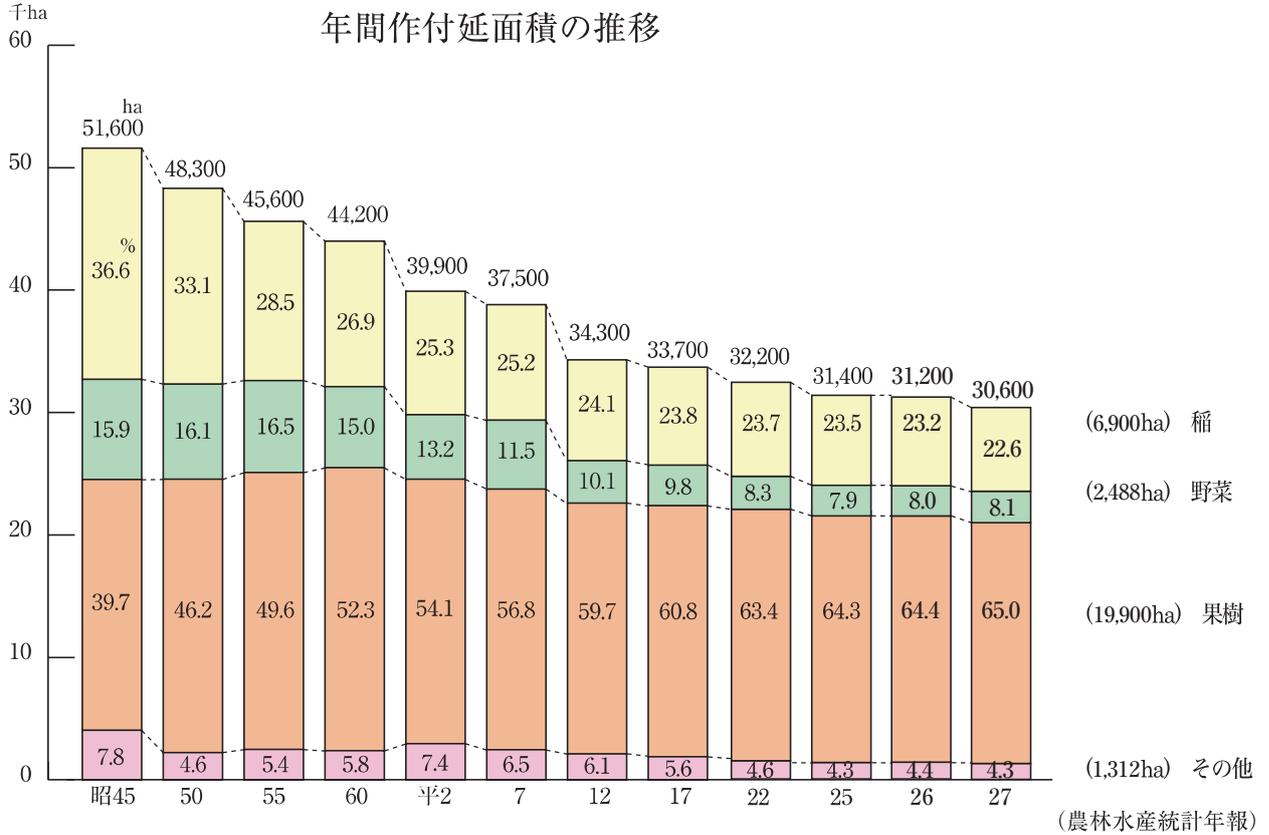
	昭50	55	60	平2	5	9	13	15	17	19	21	23
野菜	197	358	663	580	459	474	432	380	382	377	419	456
花き	35	79	180	276	353	413	266	210	220	211	205	197
果樹	16	15	80	137	174	150	117	120	118	92	74	60
合計	248	452	923	993	986	1,037	815	710	720	680	698	713

（園芸用ガラス室、ハウス等の設置状況調査：昭50～平21）
（園芸用施設及び農業用廃プラスチックに関する実態：平23）

4) 農業生産

年間作付け面積の構成 —— 果樹 (65.0%)・水稲 (22.6%)・野菜 (8.1%)

作付面積は年々減少しているが、本県の基幹品目である果樹の作付面積は全国第2位となっている。



作付延面積

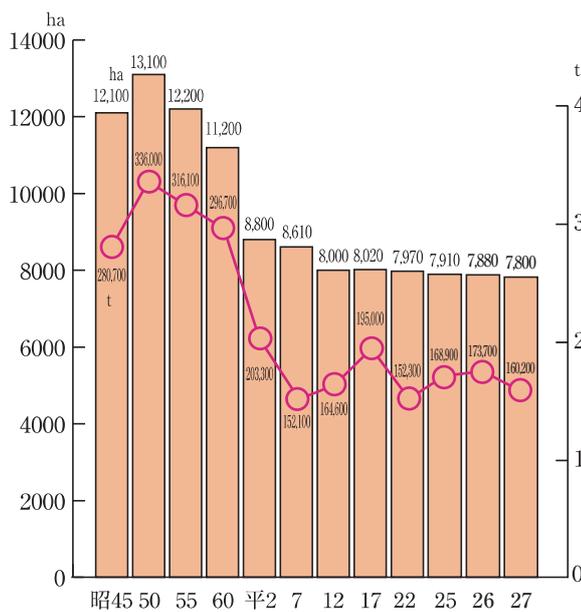
〔平27〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
作付延面積 (ha)	4,127,000	30,600	36	0.7	北海道	茨城	新潟
稲	1,506,000	6,900	42	0.5	新潟	北海道	秋田
野菜	562,900	2,488	46	0.4	北海道	茨城	千葉
果樹	230,200	19,900	2	8.6	青森	和歌山	愛媛

かんきつ類の栽培面積及び収穫量の推移

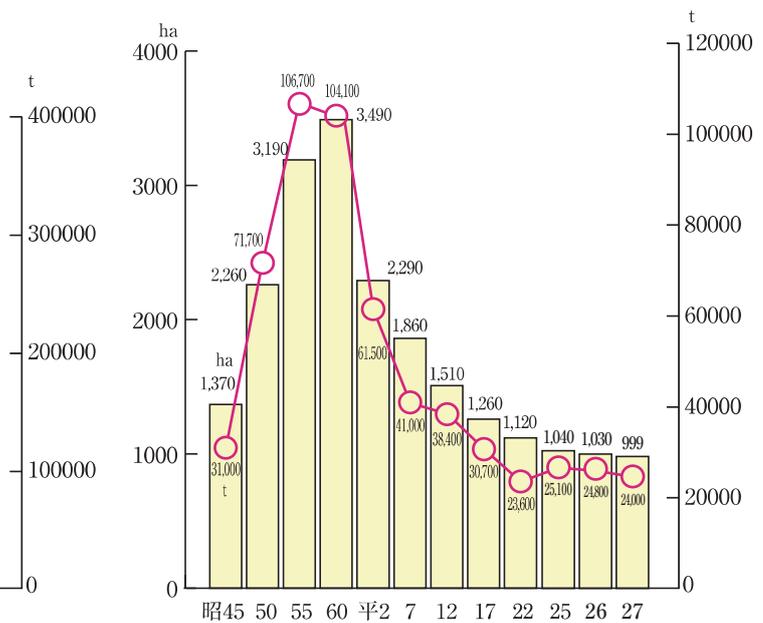
- みかん：みかんの生産過剰とオレンジ輸入自由化により、昭和50年から平成2年にかけて栽培面積は急激に減少するが、平成2年から緩やかな減少傾向となる。
- はっさく：みかんの転換作物として昭和60年まで栽培面積が増加したが、その後減少傾向に転じ、近年はその傾向が鈍化している。
- 不知火：みかん・なつみかん・いよかん等の転換作物として栽培面積は増加傾向にある。

平成26年の全国順位とシェア（栽培面積）—— みかん1位（17.5%）

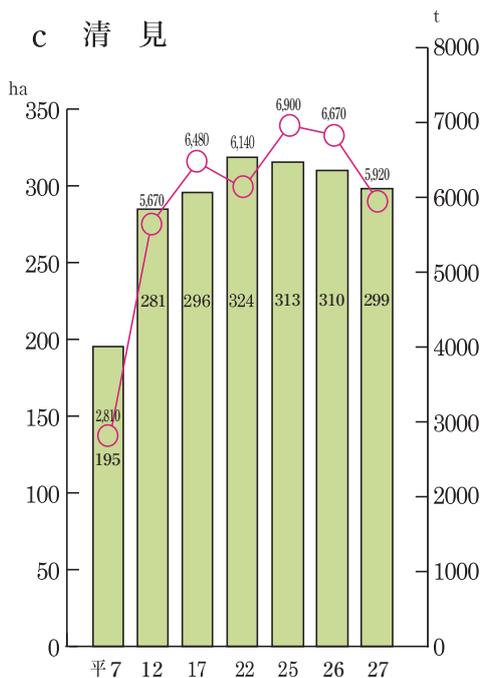
a みかん



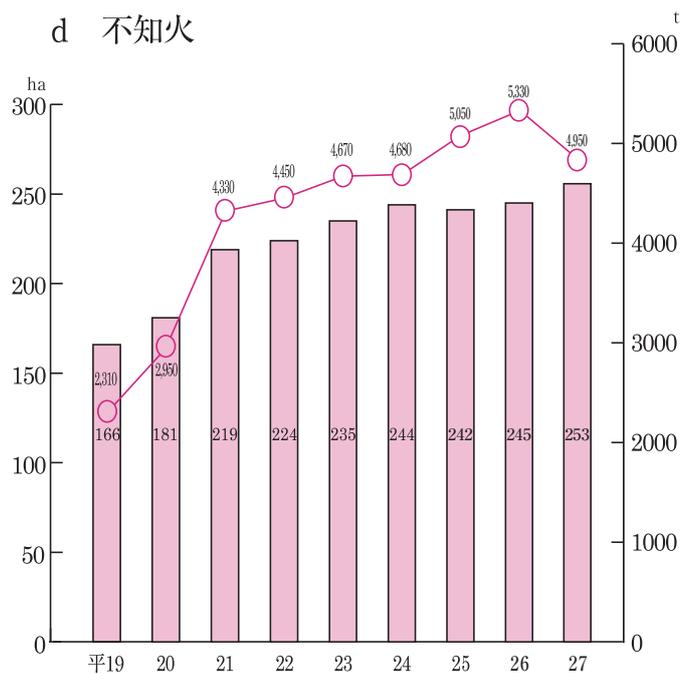
b はっさく



c 清見



d 不知火

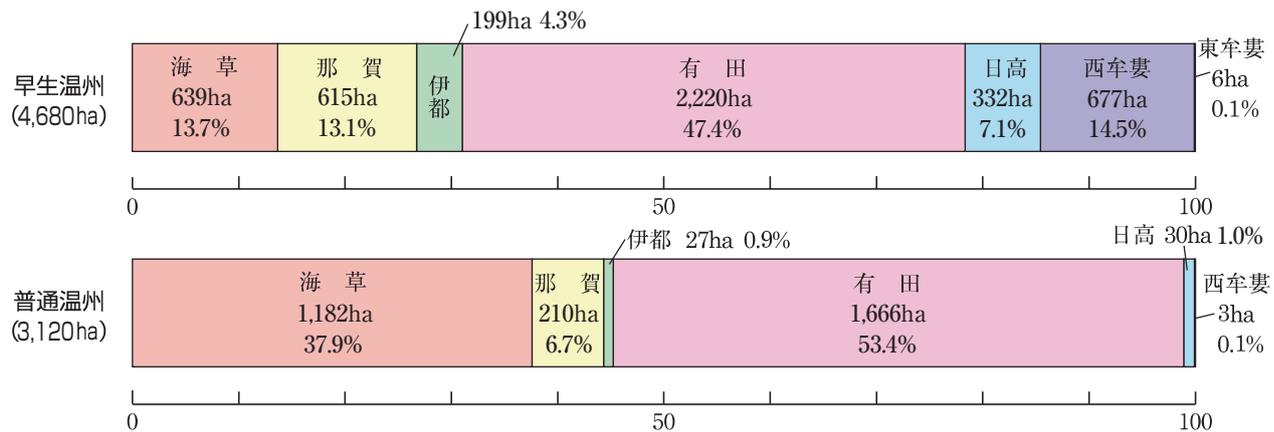


□ 栽培面積 (ha)

○ 収穫量 (t)

(農林水産統計年報・市町村別統計検討協議会調べ)

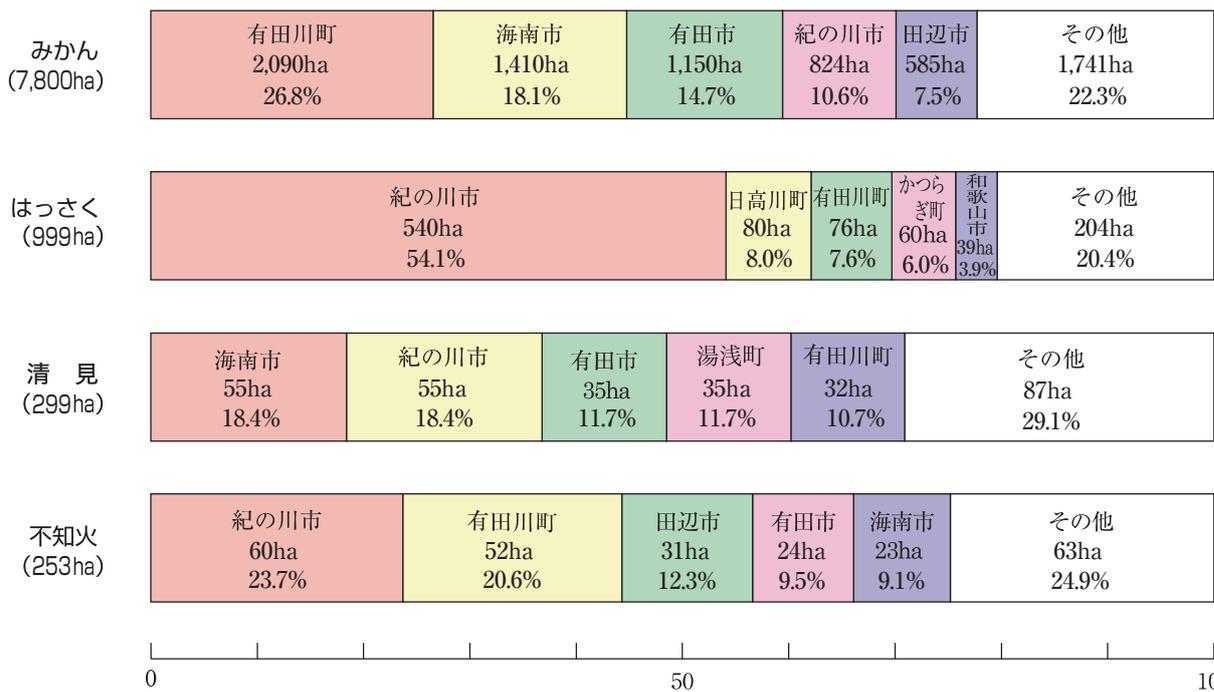
地域別・みかんの栽培面積（平27）



(市町村別統計検討協議会調べ)

市町村別・かんきつ類の栽培面積

〔上位5市町村〕（平27）



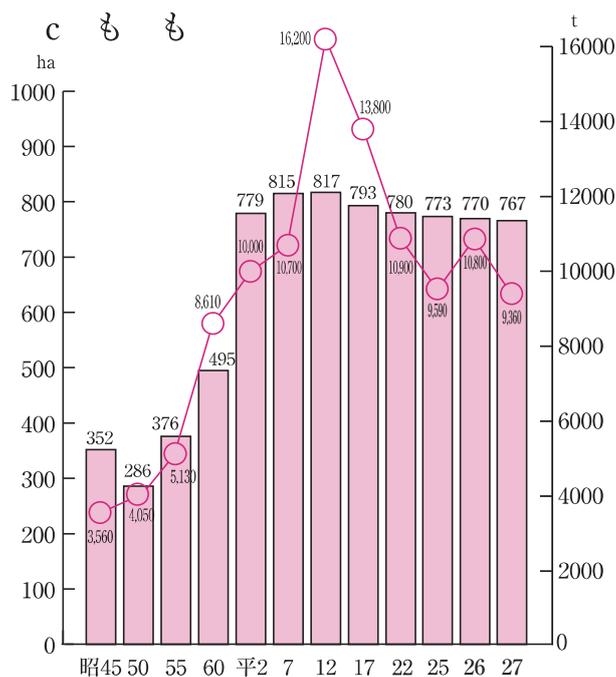
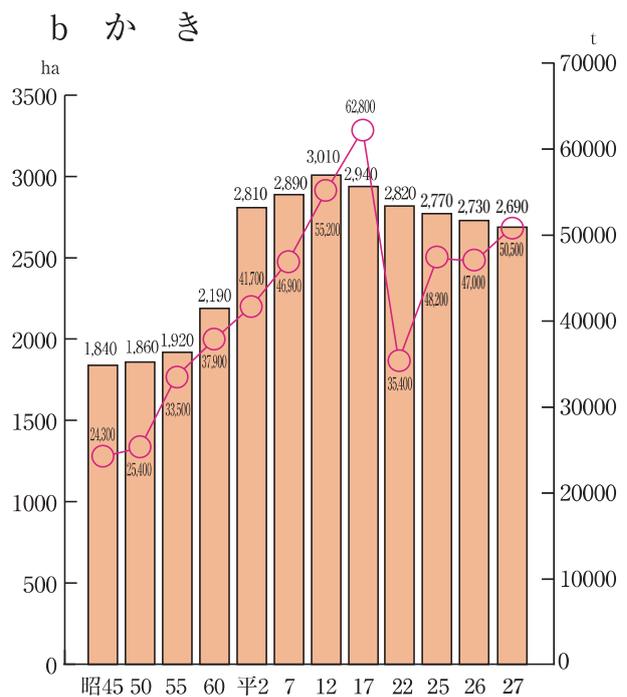
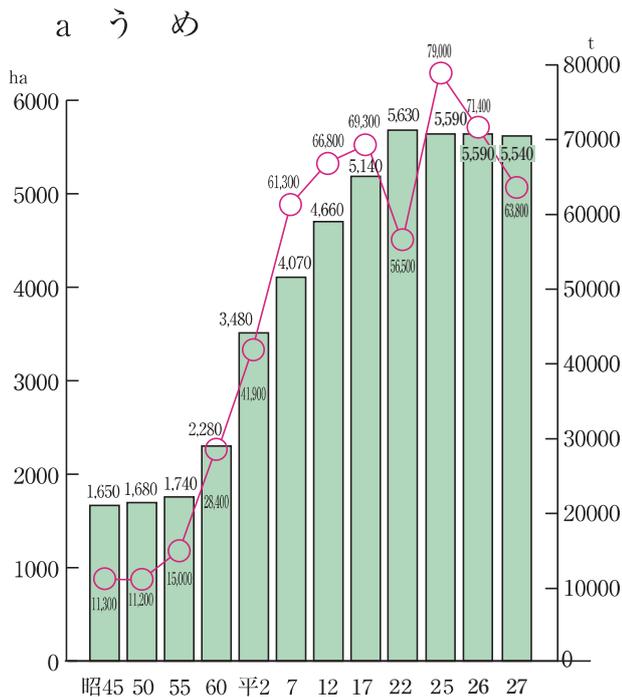
(市町村別統計検討協議会調べ)

みかんの栽培面積							
〔平27〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
みかん	44,600	7,800	1	17.5	和歌山	愛媛	静岡

落葉果樹の栽培面積及び収穫量の推移

落葉果樹全体では、昭和55年以降みかんからの転作により栽培面積は増加傾向であったが、現在は横ばいである。

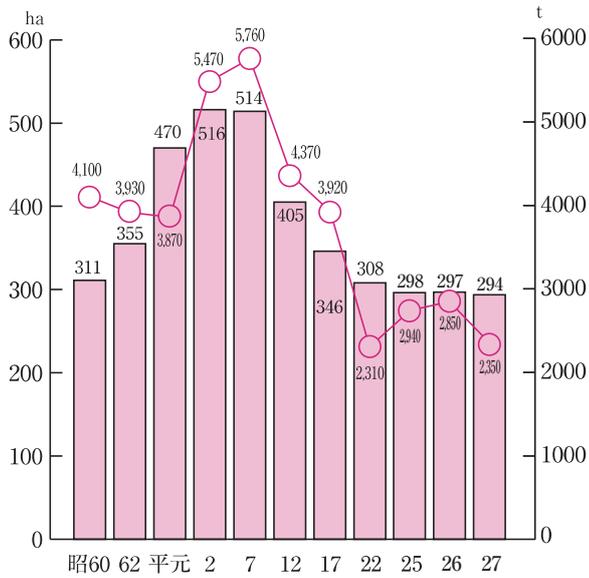
- うめ 昭和55年から平成7年にかけて健康食ブームと相まって栽培面積が急増したが、近年は横ばいとなっている。
 - かき・もも 昭和55年から平成2年にかけて栽培面積が急増し、それ以降は横ばいとなっている。
 - すもも・キウイフルーツ 平成2年をピークに栽培面積は減少したが、近年は横ばいとなっている。
- 平成27年の全国順位とシェア(栽培面積) — うめ 1位(33.2%) ・ かき 1位(12.6%)
 もも 4位(7.2%) ・ すもも 3位(9.6%)
 キウイフルーツ 3位(7.0%)



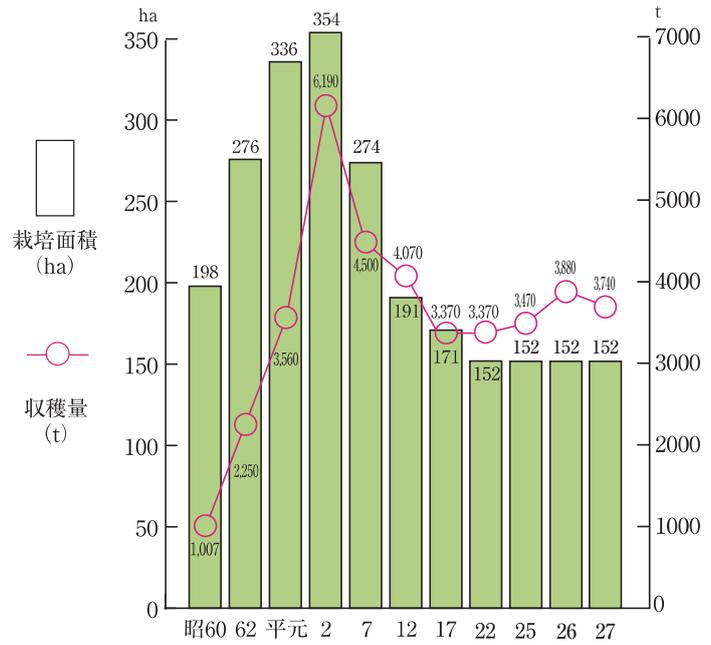
 栽培面積 (ha)
  収穫量 (t)

(農林水産統計年報)

d すもも

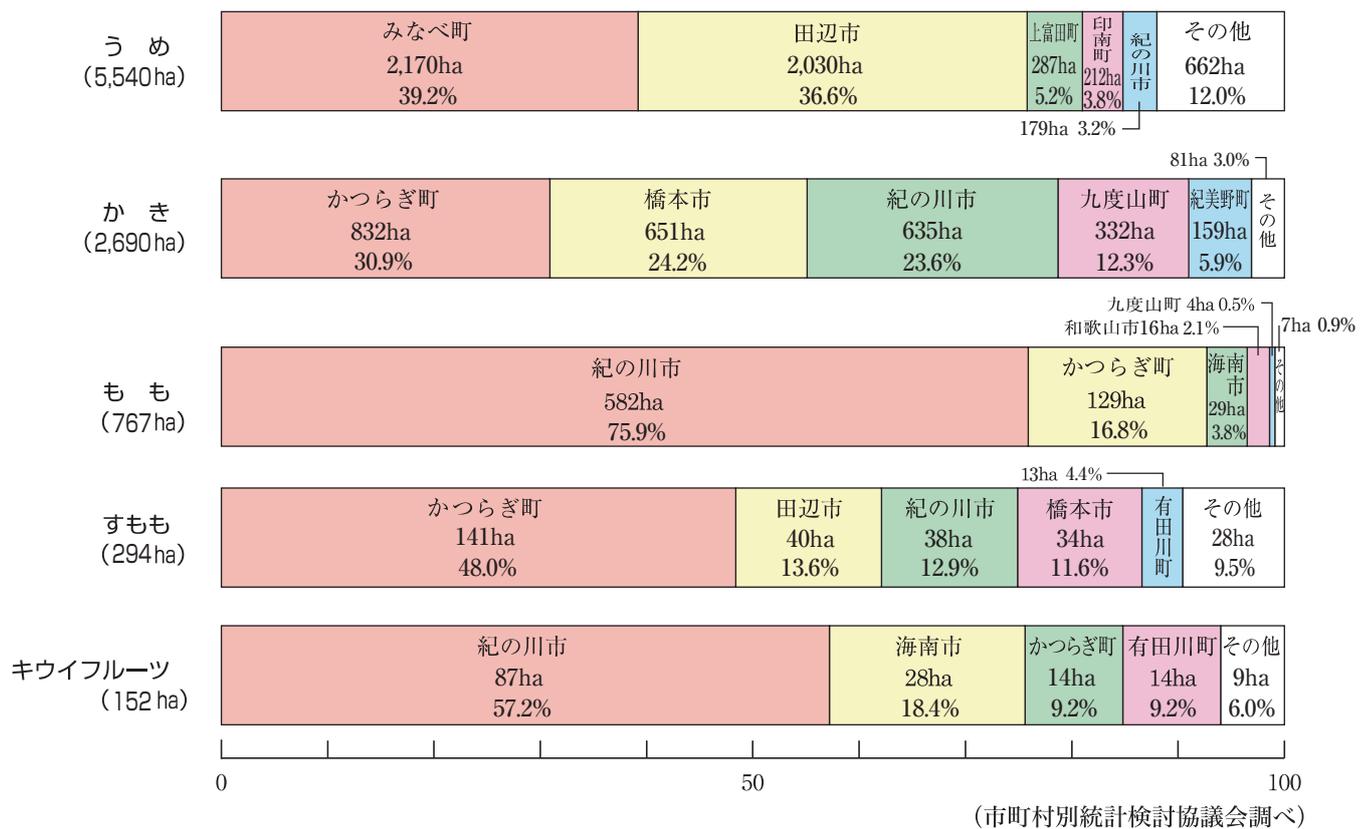


e キウイフルーツ



(農林水産統計年報)

市町村別・落葉果樹の栽培面積 (平27)



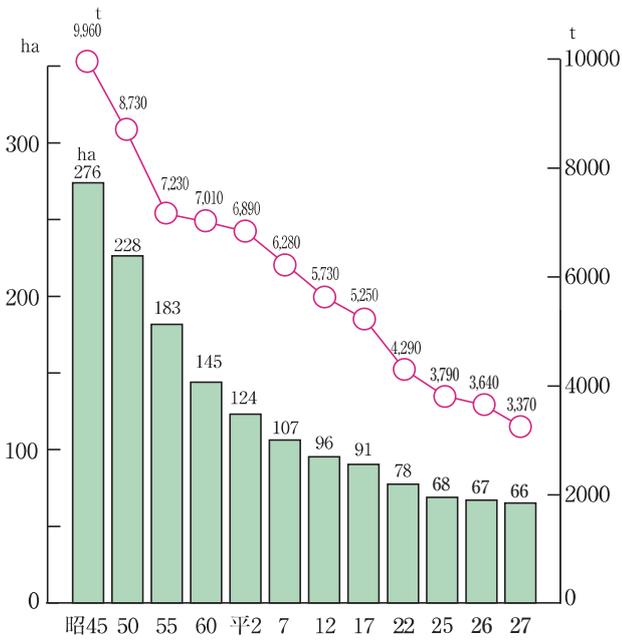
(市町村別統計検討協議会調べ)

栽培面積 (落葉果樹)		(ha)						
〔平27〕		全国	和歌山県		1位	2位	3位	
		実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
う	め	16,700	5,540	1	33.2	和歌山	群馬	福井
か	き	21,400	2,690	1	12.6	和歌山	奈良	福岡
も	も	10,600	767	4	7.2	山梨	福島	長野
す	も	3,050	294	3	9.6	山梨	長野	和歌山
	キウイフルーツ	2,180	152	3	7.0	愛媛	福岡	和歌山

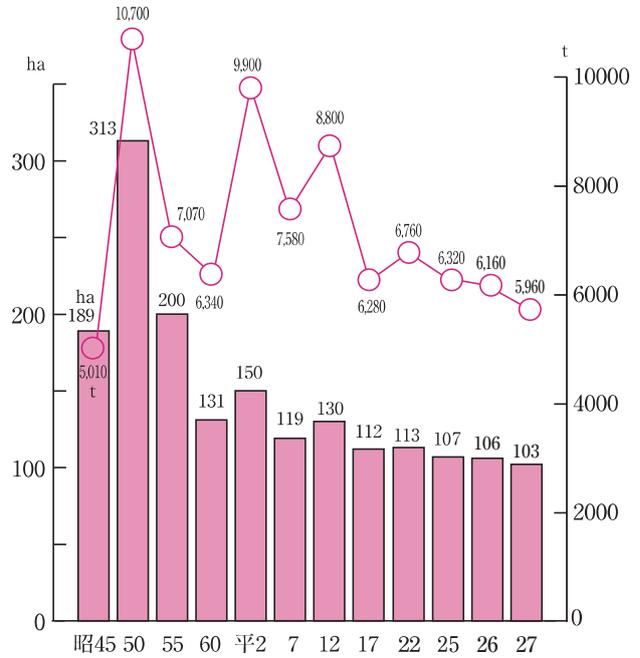
果菜類の作付面積及び収穫量の推移

栽培面積は減少傾向であるが、近年は横ばいで推移している。

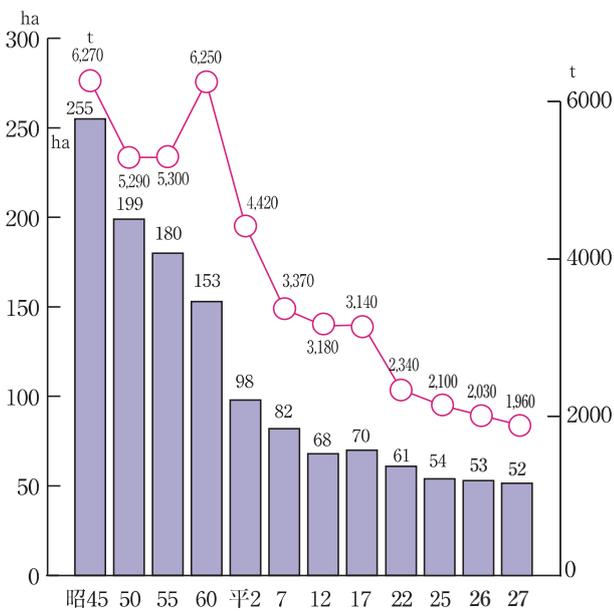
a きゅうり



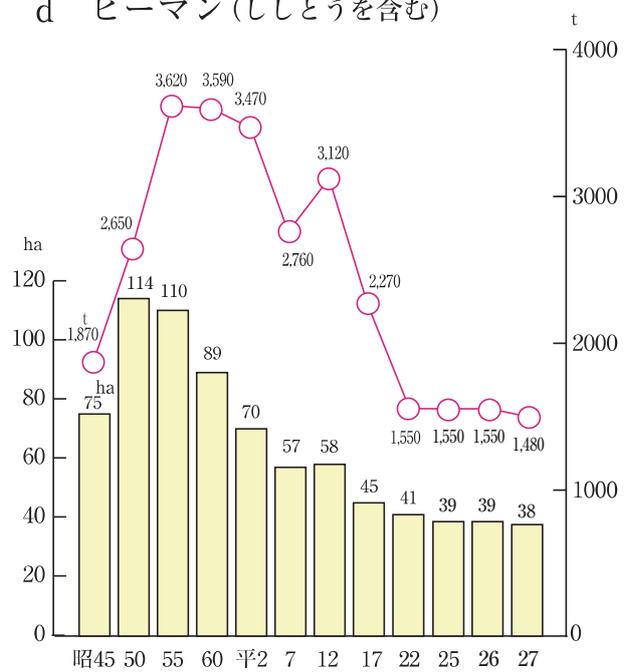
b トマト (ミニトマトを含む)



c なす



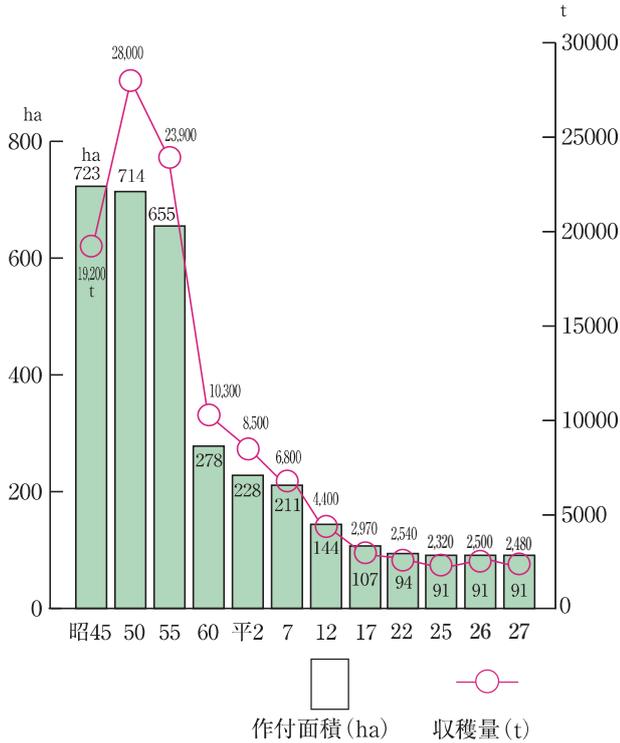
d ピーマン (ししとうを含む)



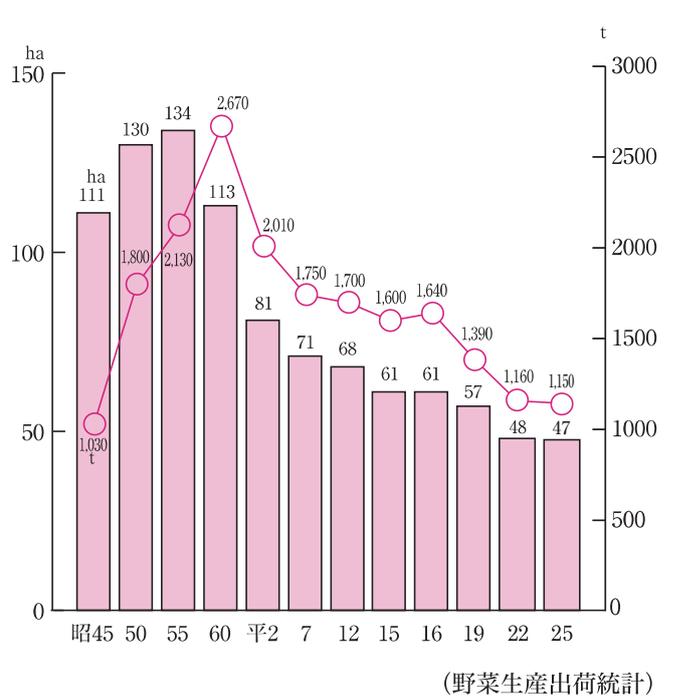
□ 作付面積 (ha) ○ 収穫量 (t)

(野菜生産出荷統計)

e すいか

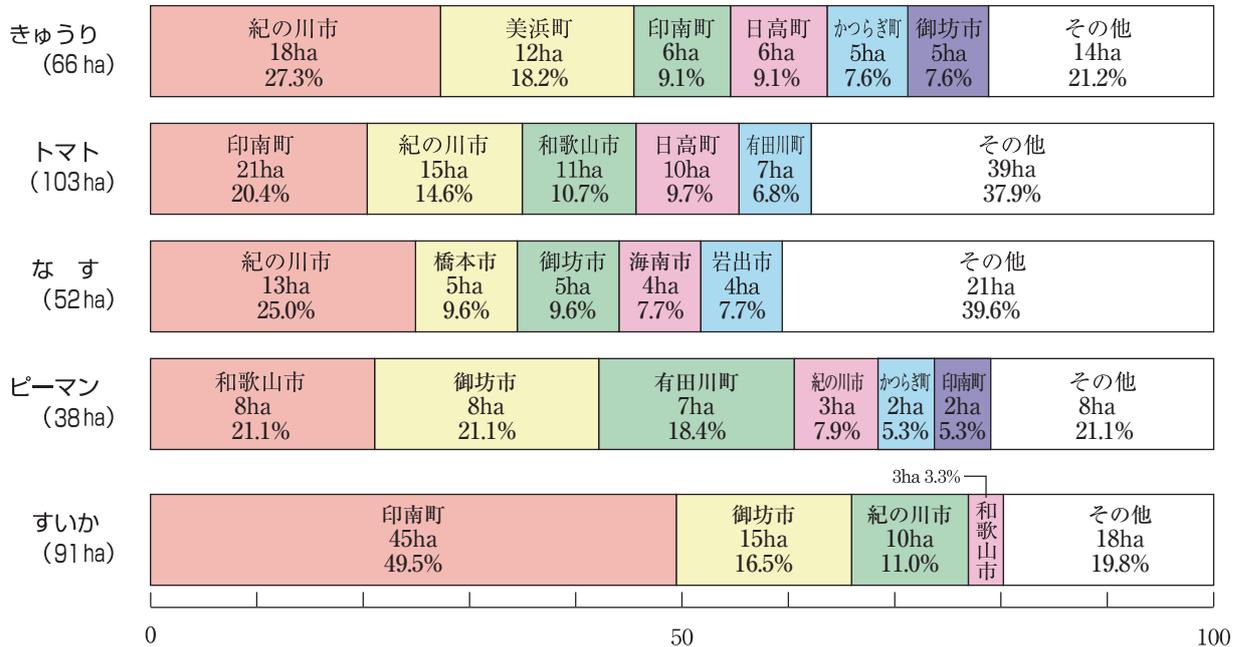


f いちご



(野菜生産出荷統計)

市町村別・果菜類の作付面積 (平27)



※ピーマンはししとう含む

(市町村別統計検討協議会調べ)

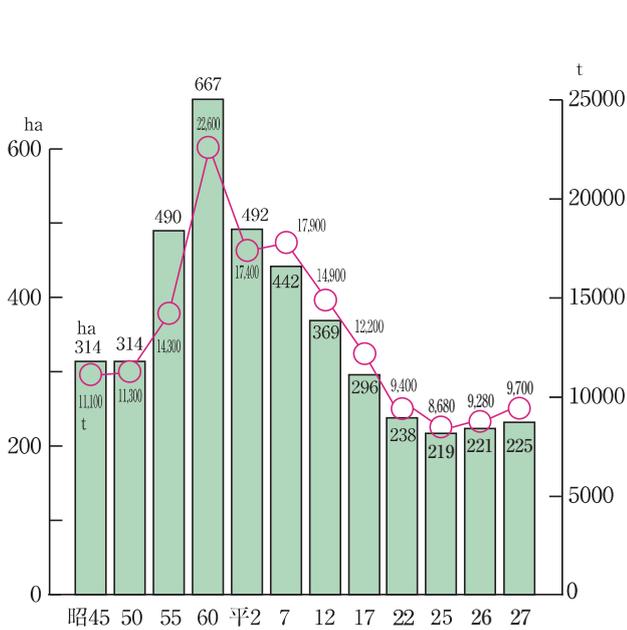
作付面積 (果菜類)							
〔平27〕	(ha)						
	全国 実数	和歌山 実数	和歌山 順位	シェア(%)	1位 県名	2位 県名	3位 県名
きゅうり	11,000	66	44	0.6	群馬	福島	宮崎
トマト	12,100	103	37	0.9	熊本	茨城	北海道
なす	9,410	52	43	0.6	新潟	群馬	山形
ピーマン	3,270	38	24	1.2	茨城	宮崎	岩手
すいか	10,600	91	21	0.9	熊本	千葉	山形
いちご	5,450	—	—	—	栃木	福岡	熊本

※県順位は、公表されている統計数値から作成した。

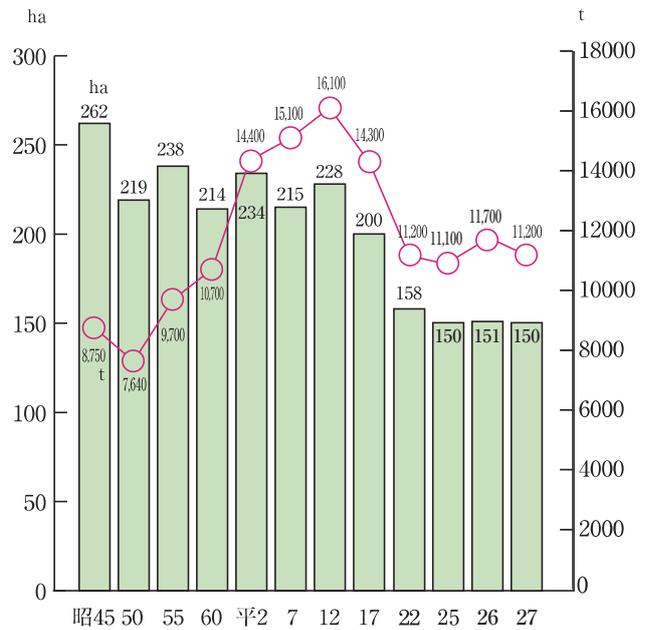
葉茎菜類の作付面積及び収穫量の推移

● 近年、栽培面積は減少傾向であるが、近年は横ばいで推移している。

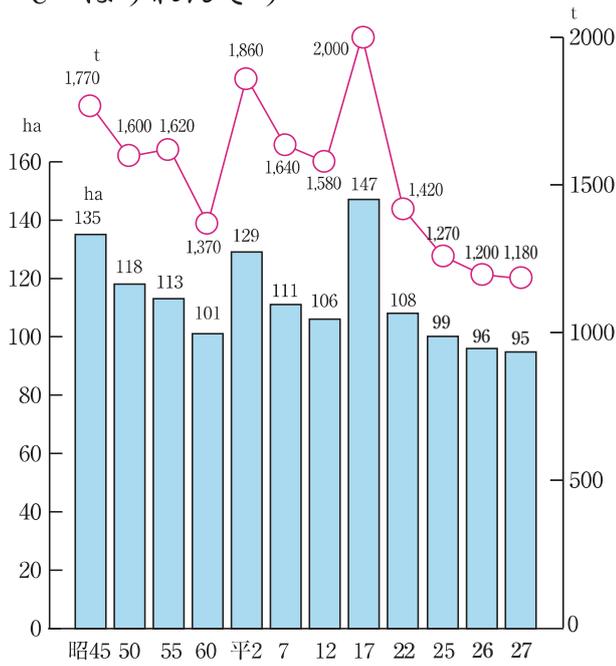
a キャベツ



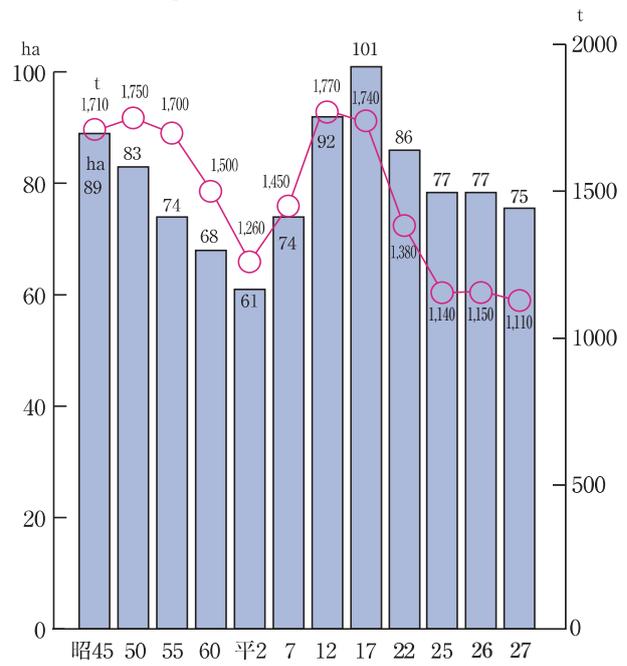
b はくさい



c ほうれんそう



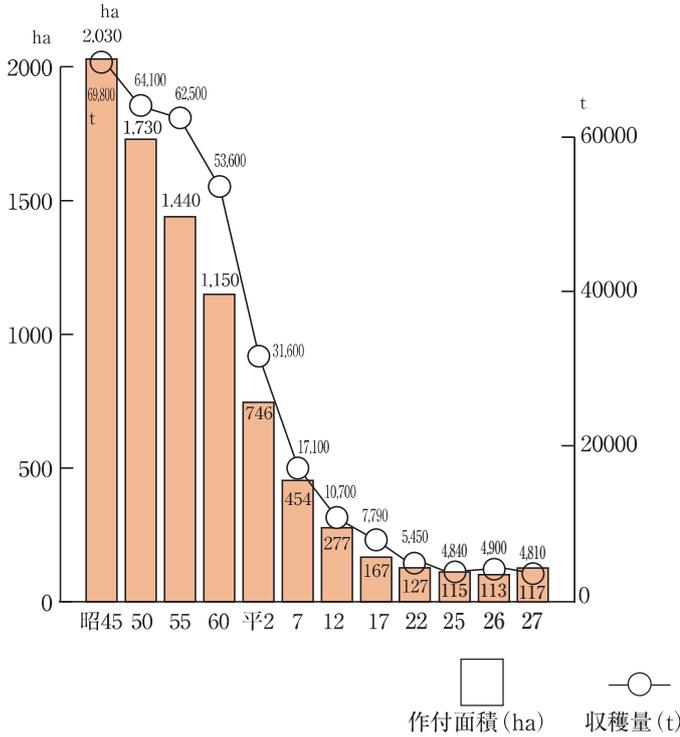
d ねぎ



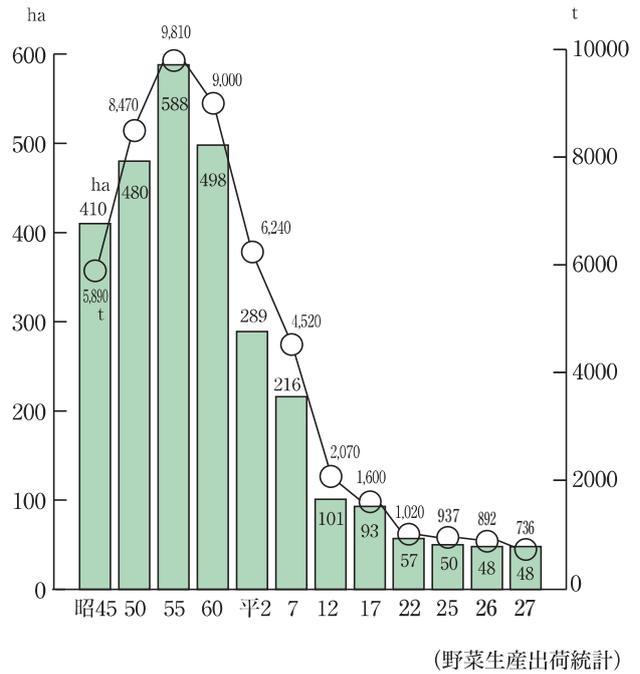
□ 作付面積 (ha) ○ 収穫量 (t)

(野菜生産出荷統計)

e たまねぎ

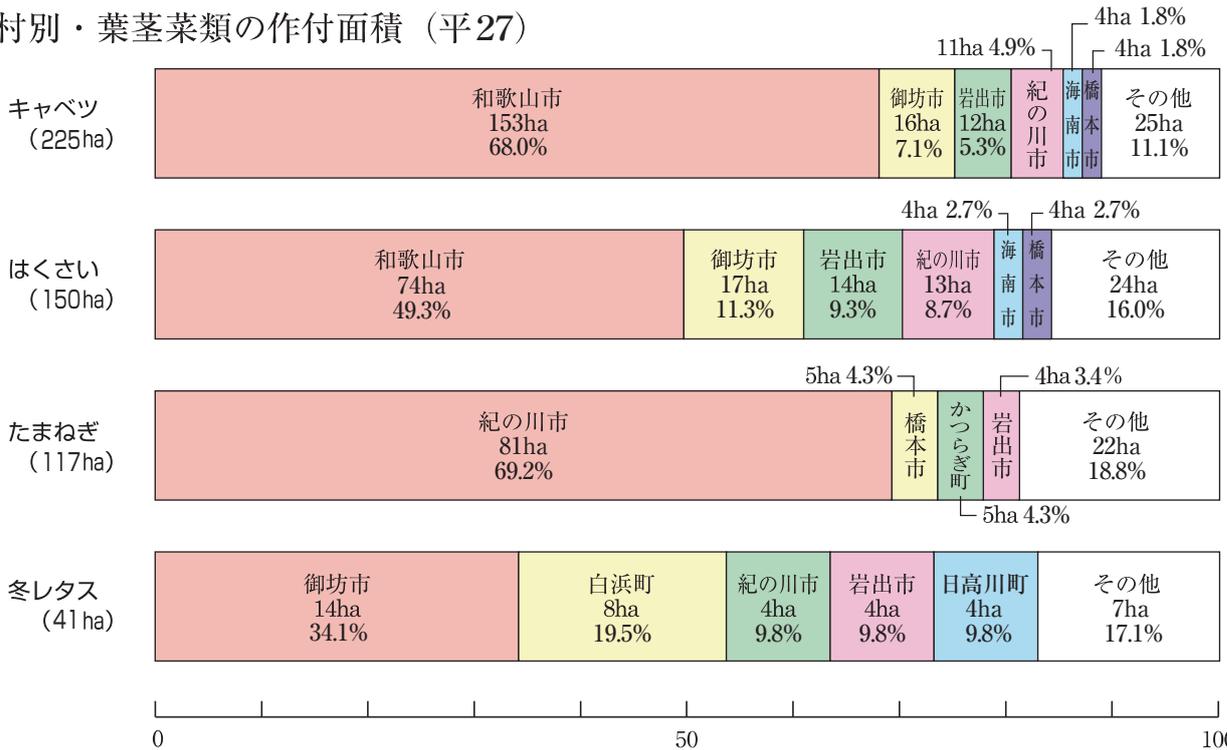


f レタス



(野菜生産出荷統計)

市町村別・葉茎菜類の作付面積 (平27)



(市町村別統計検討協議会調べ)

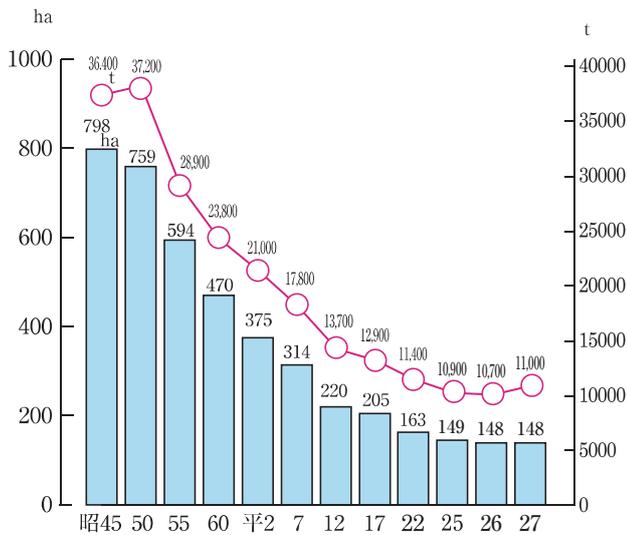
作付面積 (葉茎菜類) (ha)							
[平27]	全国	和歌山県			1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
キャベツ	34,700	225	35	0.6	愛知県	群馬県	千葉県
はくさい	17,600	150	29	0.9	茨城県	長野県	北海道
ほうれんそう	21,000	95	41	0.5	千葉県	埼玉県	群馬県
ねぎ	22,800	75	46	0.3	埼玉県	千葉県	茨城県
たまねぎ	25,700	117	27	0.5	北海道	佐賀県	兵庫県
レタス	21,500	48	29	0.2	長野県	茨城県	群馬県・兵庫県

※県順位は、公表されている統計数値から作成した。

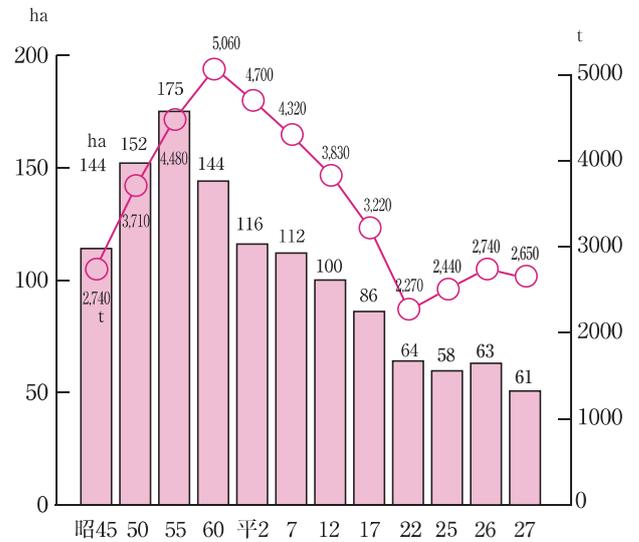
根菜類及び豆類の作付面積と収穫量の推移

● 栽培面積は減少傾向であるが、近年は横ばいで推移している。

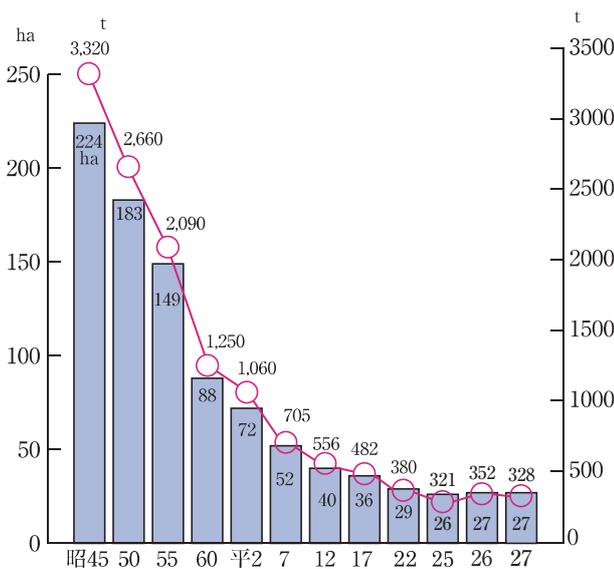
a だいこん



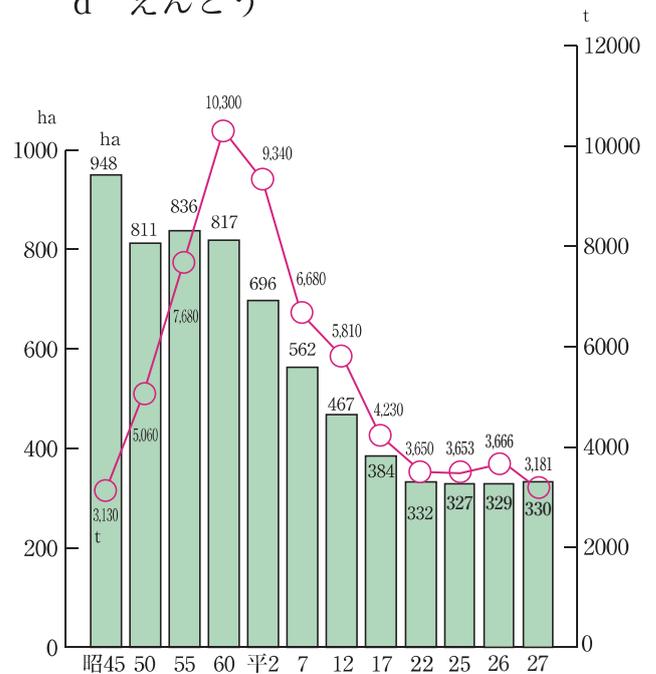
b にんじん



c さといも



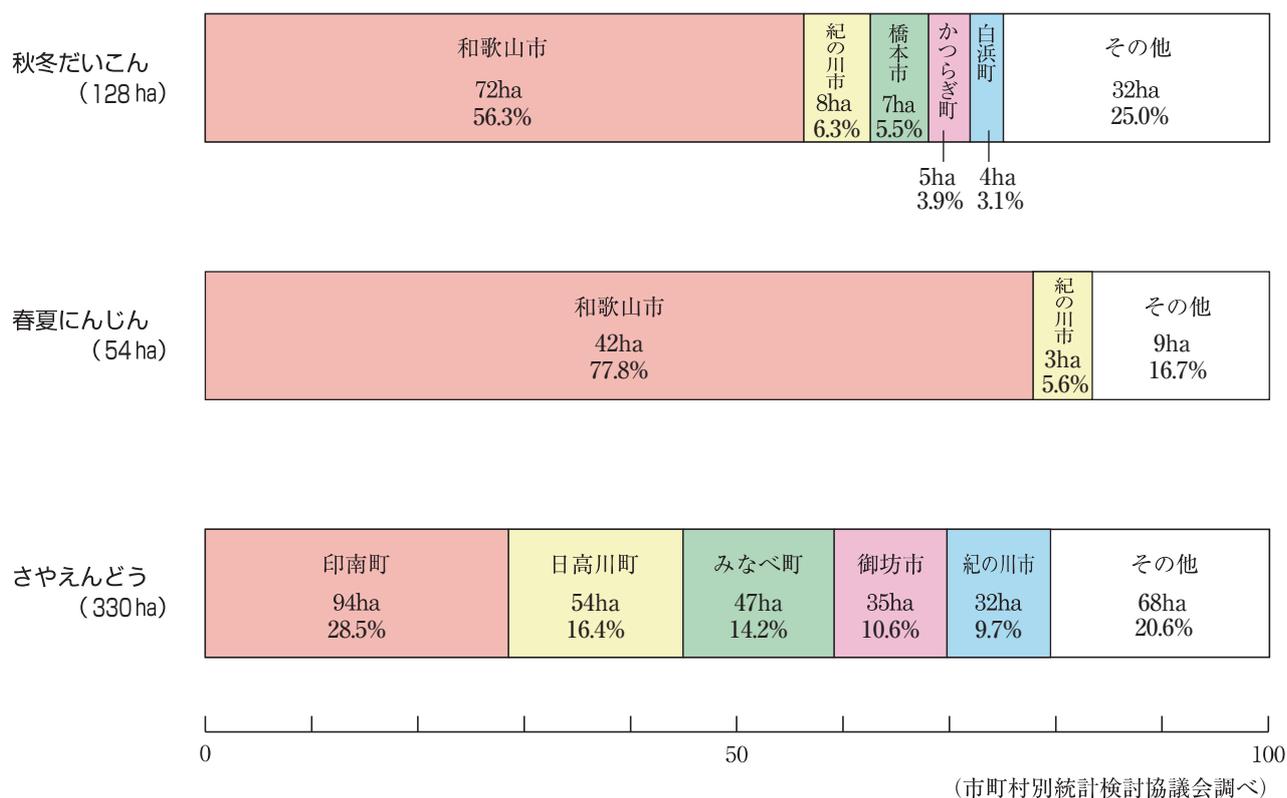
d えんどう



□ 作付面積 (ha) ○ 収穫量 (t)

(野菜生産出荷統計)

市町村別・根菜類及び豆類の作付面積（平27）



作付面積（根菜類・豆類）							
〔平27〕	和歌山県				1位	2位	3位
	全国 実数	和歌山 実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
だいこん	32,900	148	41	0.4	北海道	青森	千葉
にんじん	18,100	61	31	0.3	北海道	千葉	青森
さといも	12,500	27	40	0.2	千葉	宮崎	埼玉
えんどう	3,807	330	2	8.7	鹿児島	和歌山	福島

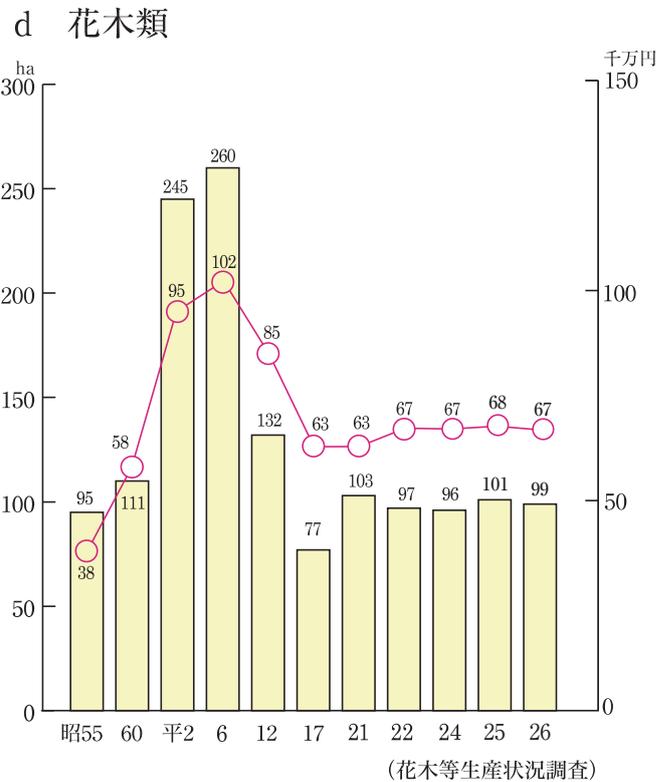
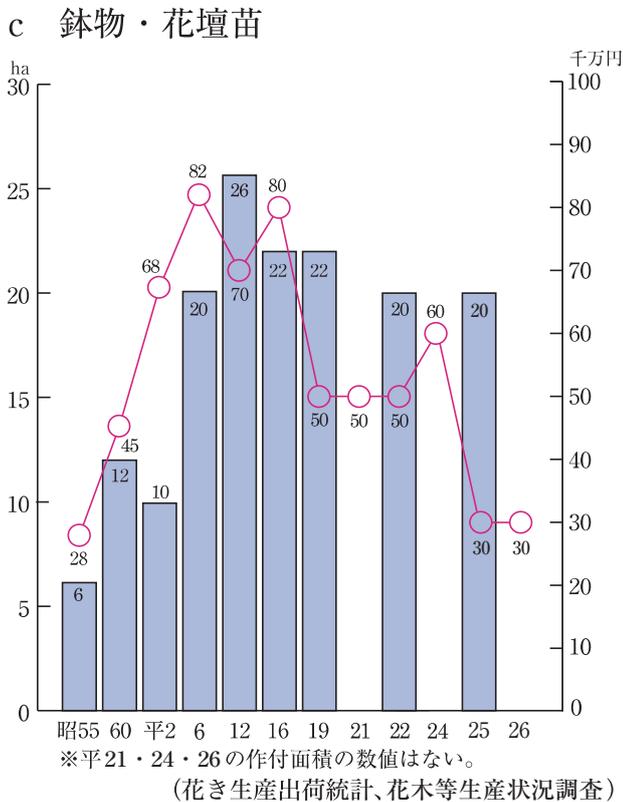
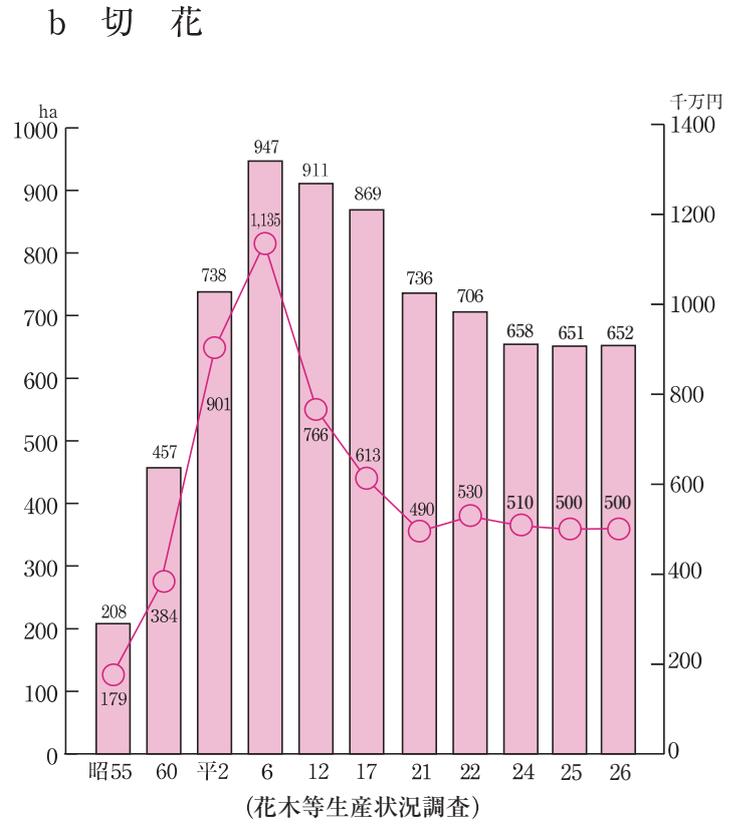
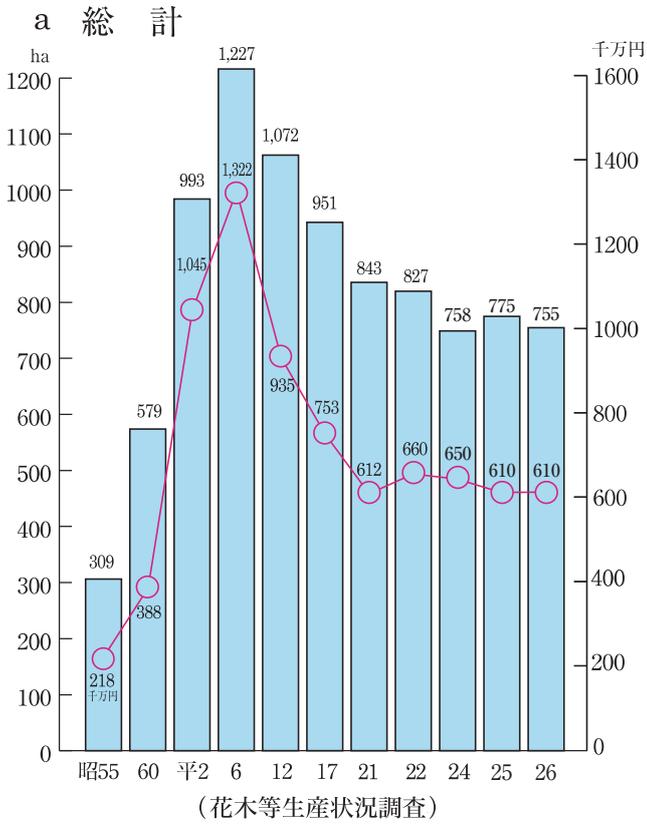
※県順位は、公表されている統計数値から作成した。

(野菜生産出荷統計)

※えんどうはさやえんどう、グリーンピースの合計

花き生産の推移

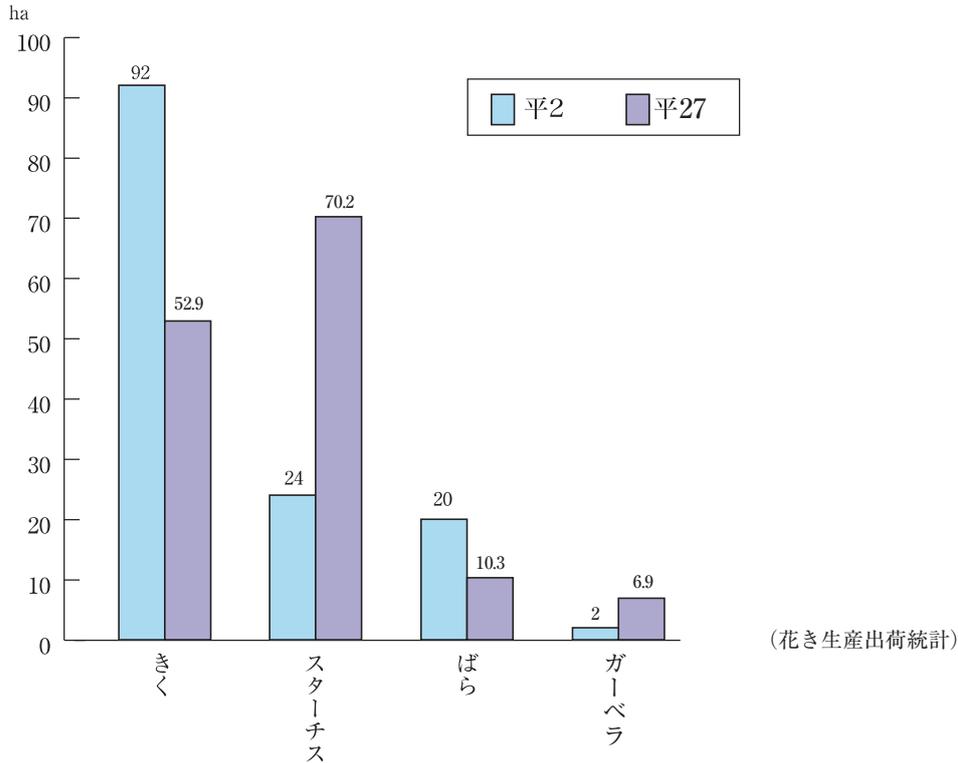
花き全体の栽培面積は平成6年から平成2年にかけて需要の増加や野菜からの転換により急激に増加し、平成6年にピークとなった。その後減少に転じ、近年は横ばいとなっている。



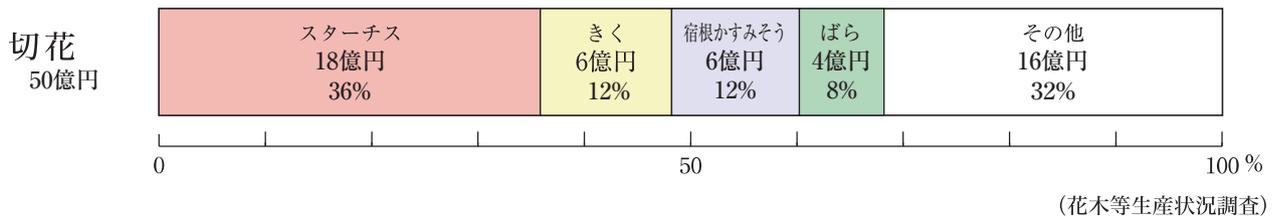
□ 作付面積 (ha) ○— 産出額 (千万円)

※ただし、金額のうち、a総計の一部（花木類、地被植物類）及びd花木類については出荷額
産出額：品目別生産量×品目別農家庭先販売価格
出荷額：出荷された農作物の金額

主要切花の作付面積



切花生産額の品目別割合 (平26)



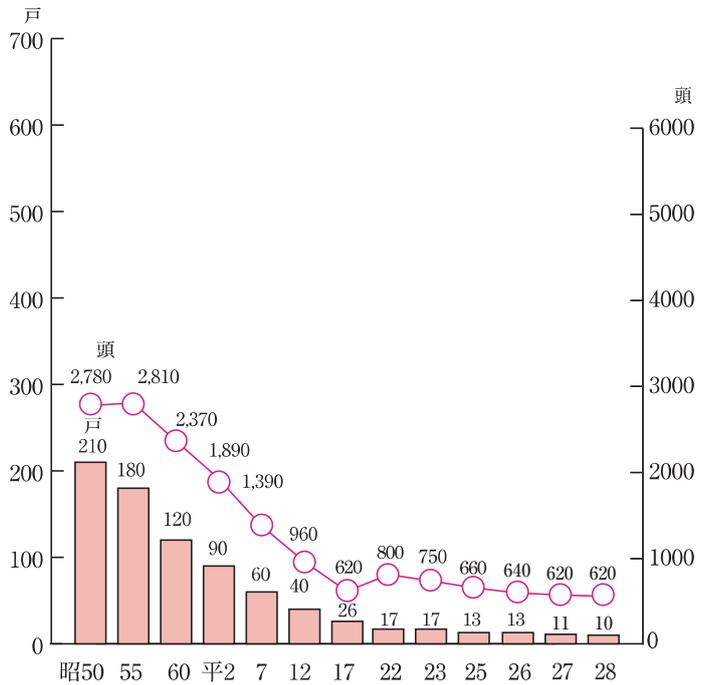
産出額 (花き)							
〔平26〕	(億円)						
	全国 実数	和歌山 実数	和歌山 順位	和歌山 シェア(%)	1位 県名	2位 県名	3位 県名
スターチス	45	18	1	40.0	和歌山	北海道	長野

(花木等生産状況調査)

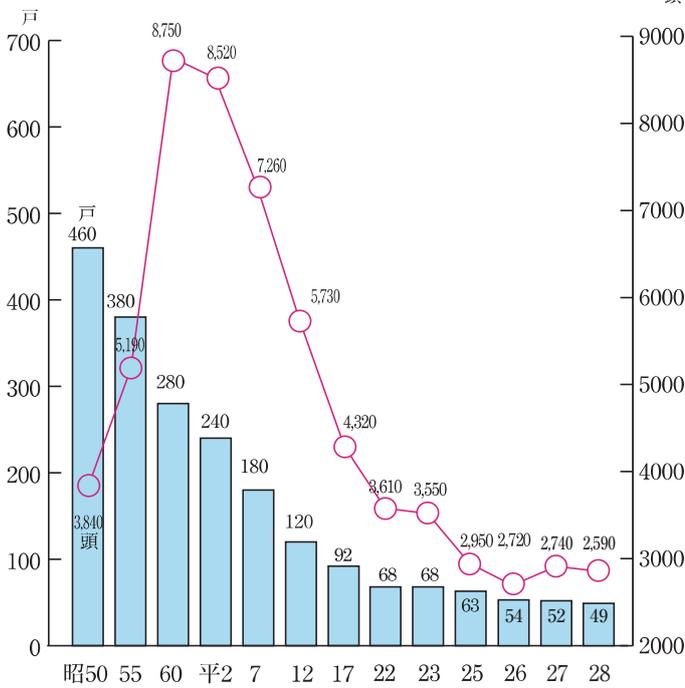
家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数の推移

畜産農家数及び飼養頭羽数は減少傾向であるが近年は横ばいで推移している。
 (採卵鶏の農家戸数は平成元年より300羽以上のみ、平成9年より1,000羽以上のみ、平成14年より種鶏農家除く。)

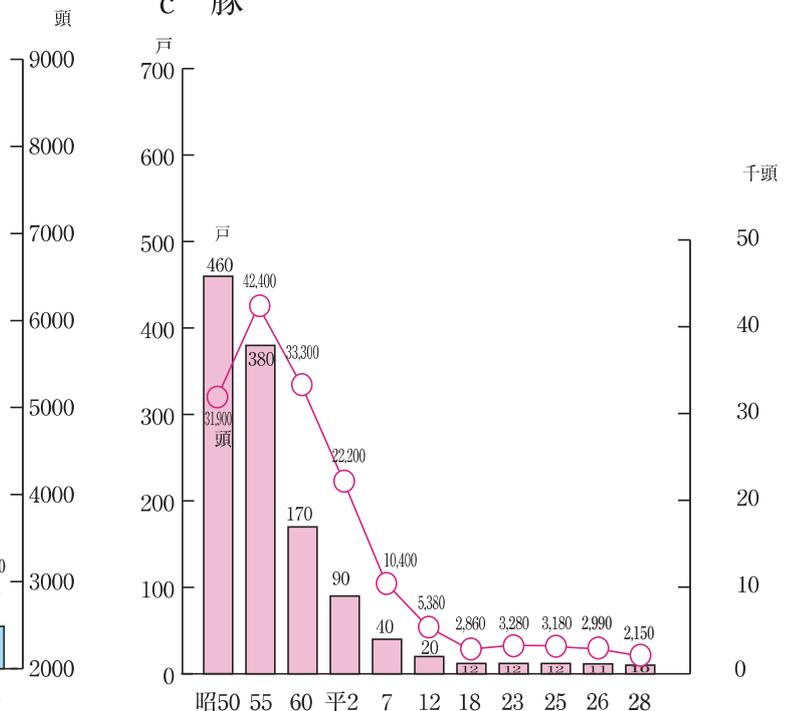
a 乳用牛



b 肉用牛



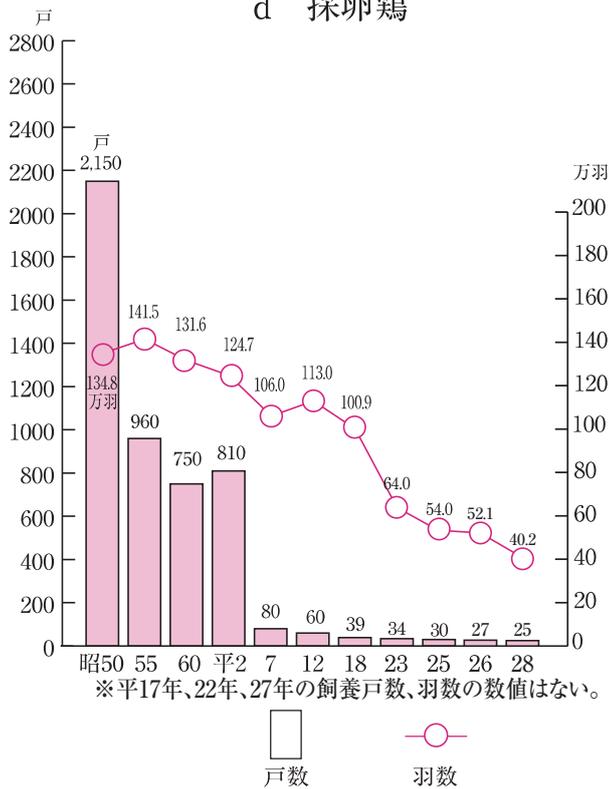
c 豚



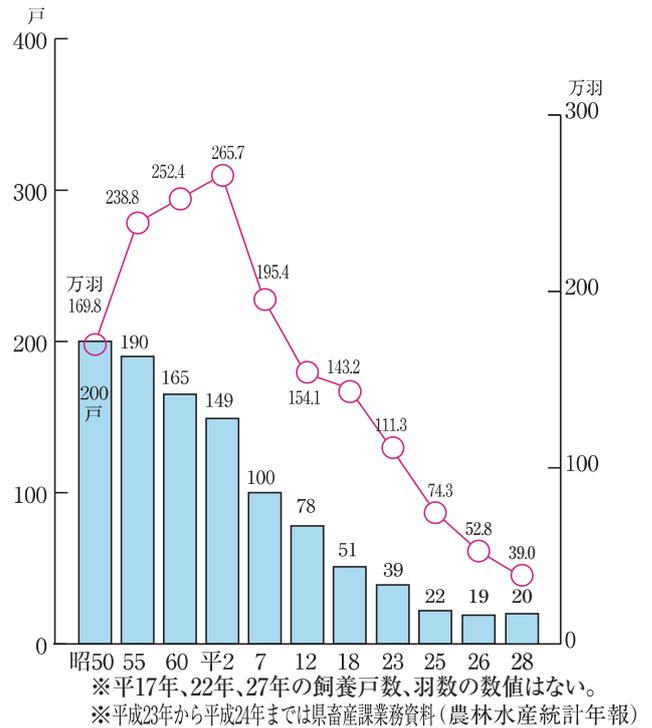
※平17年、22年、27年の飼養戸数、頭数の数値はない。

戸数
 頭数
 (農林水産統計年報)

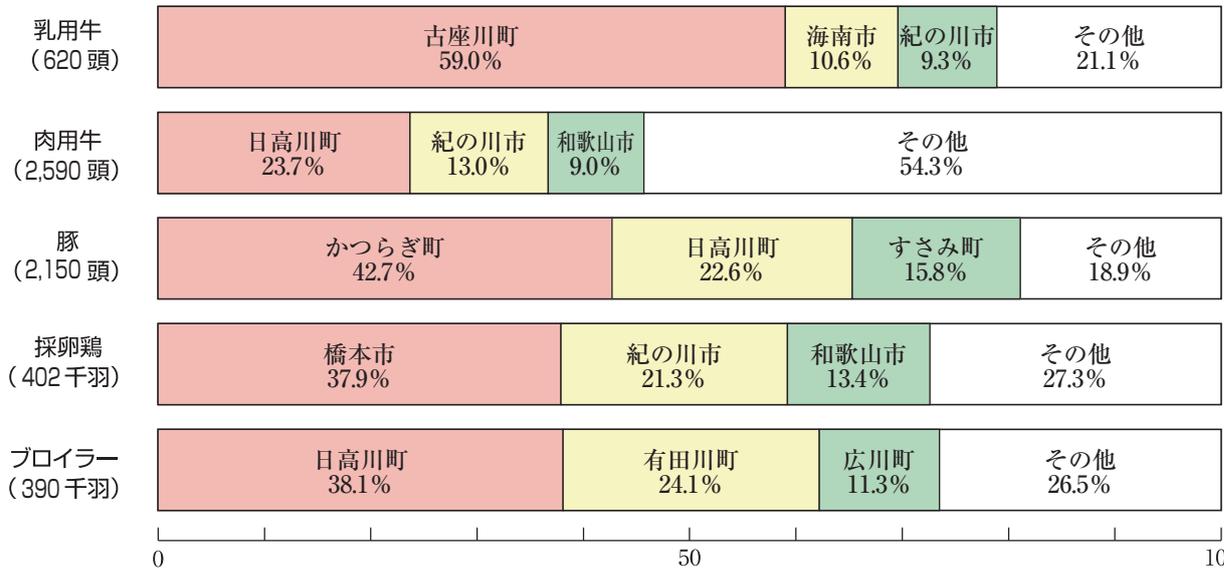
d 採卵鶏



e ブロイラー



市町村別・家畜飼養頭羽数 (平28:乳用牛、肉用牛、豚・採卵鶏)



※豚、採卵鶏、ブロイラーについては平26数値 (県畜産課業務資料)

家畜の飼養頭羽数・戸数

		和歌山県				1位 県名	2位 県名	3位 県名
		全国 実数	実数	順位	シェア(%)			
飼養頭羽数	乳用牛(頭)	1,345,000	620	47	0.0	北海道	栃木	熊本
	肉用牛(頭)	2,479,000	2,590	44	0.1	北海道	鹿児島	宮崎
	豚(頭)	9,313,000	2,150	47	0.0	鹿児島	宮崎	千葉
	採卵鶏(千羽)	175,733	402	43	0.2	茨城	千葉	鹿児島
	ブロイラー(千羽)	134,395	390	-	0.3	宮崎	鹿児島	岩手
飼養戸数(戸)	乳用牛	17,000	10	47	0.1	北海道	岩手	栃木
	肉用牛	51,900	49	44	0.1	鹿児島	宮崎	岩手
	豚	4,830	10	43	0.2	鹿児島	宮崎	茨城
	採卵鶏	2,530	25	34	1.0	千葉	愛知	茨城
	ブロイラー	2,360	20	21	0.8	宮崎	鹿児島	岩手

ブロイラーの飼養頭羽数の和歌山県の順位は、飼養頭羽数の数値がXとなっている県があるため確定できない。

X:個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの

(農林水産統計年報)

乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏、ブロイラー [平28.2.1現在]

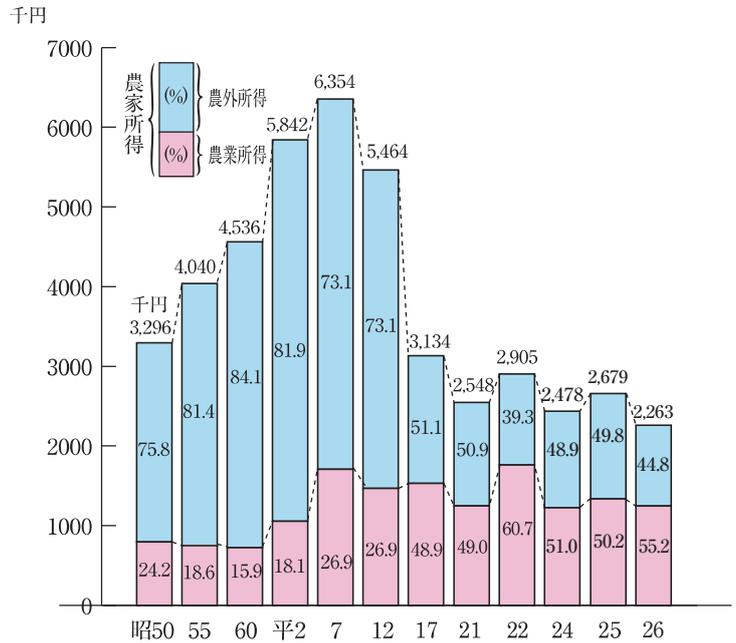
5) 農業所得と農業産出額

農業産出額はピークの平成3年で1,737億円となり、昭和45年に比べ3.0倍となっている。しかし、平成11年以降ピーク時の60～70%程度の産出額で推移している。

また、生産農業所得も同様の傾向で平成26年は252億円となり、農家所得推移も平成8年(6,590千円)をピークに減少傾向にある。

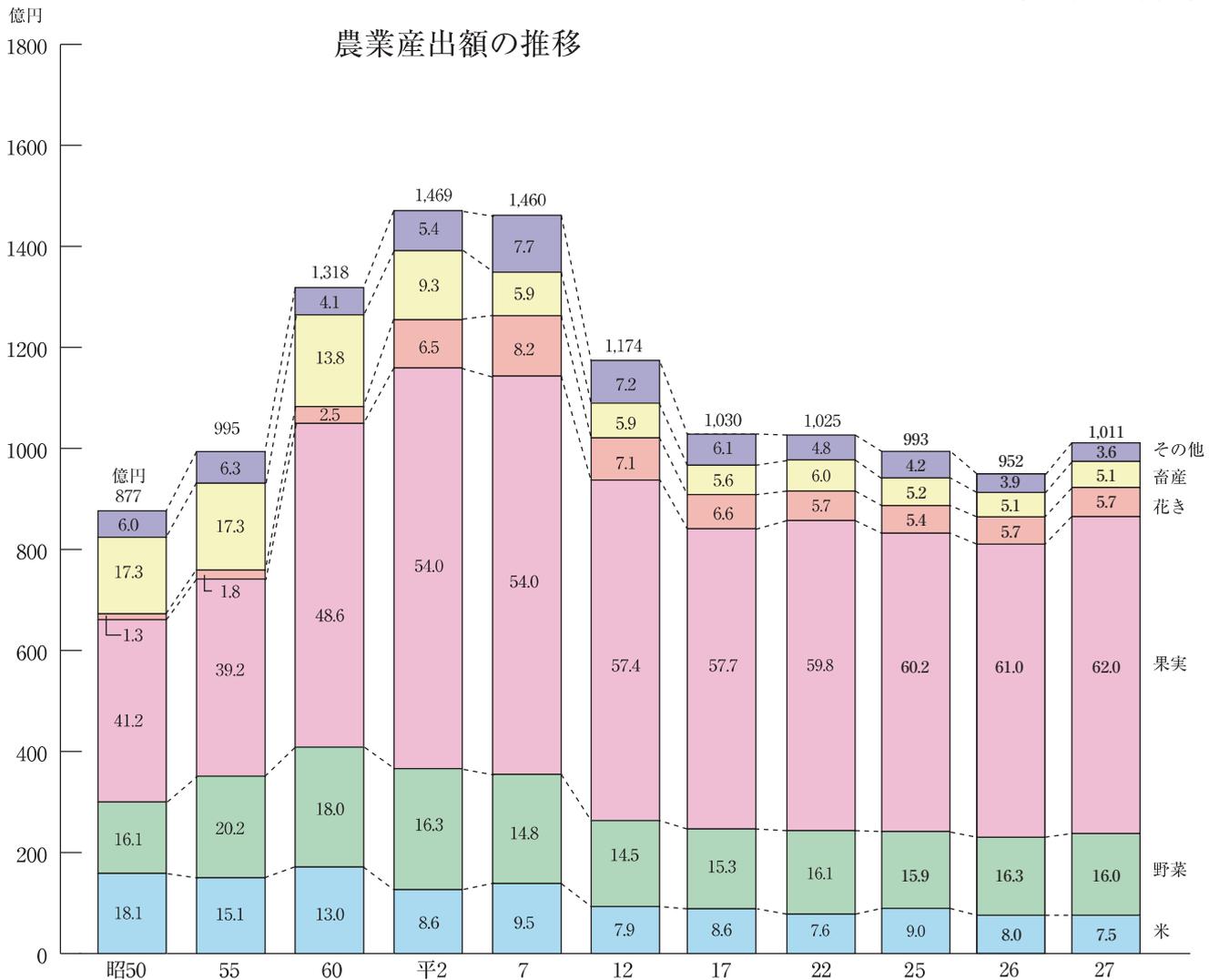
※本調査は、平成16年より調査対象及び調査内容が変更されていますので、ご利用の際はご注意ください。

農家所得の推移



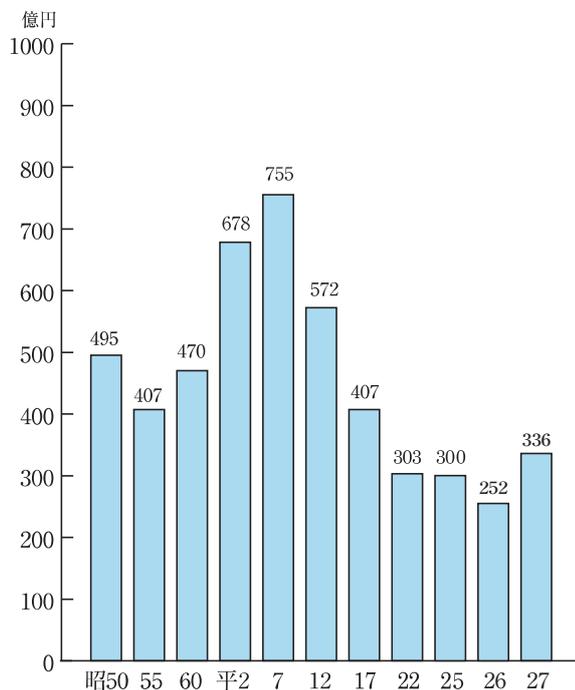
(農林水産統計年報)

農業産出額の推移



(農林水産統計年報)

生産農業所得（県計）の推移



(農林水産統計年報)

市町村別・部門別農業産出額（平27）

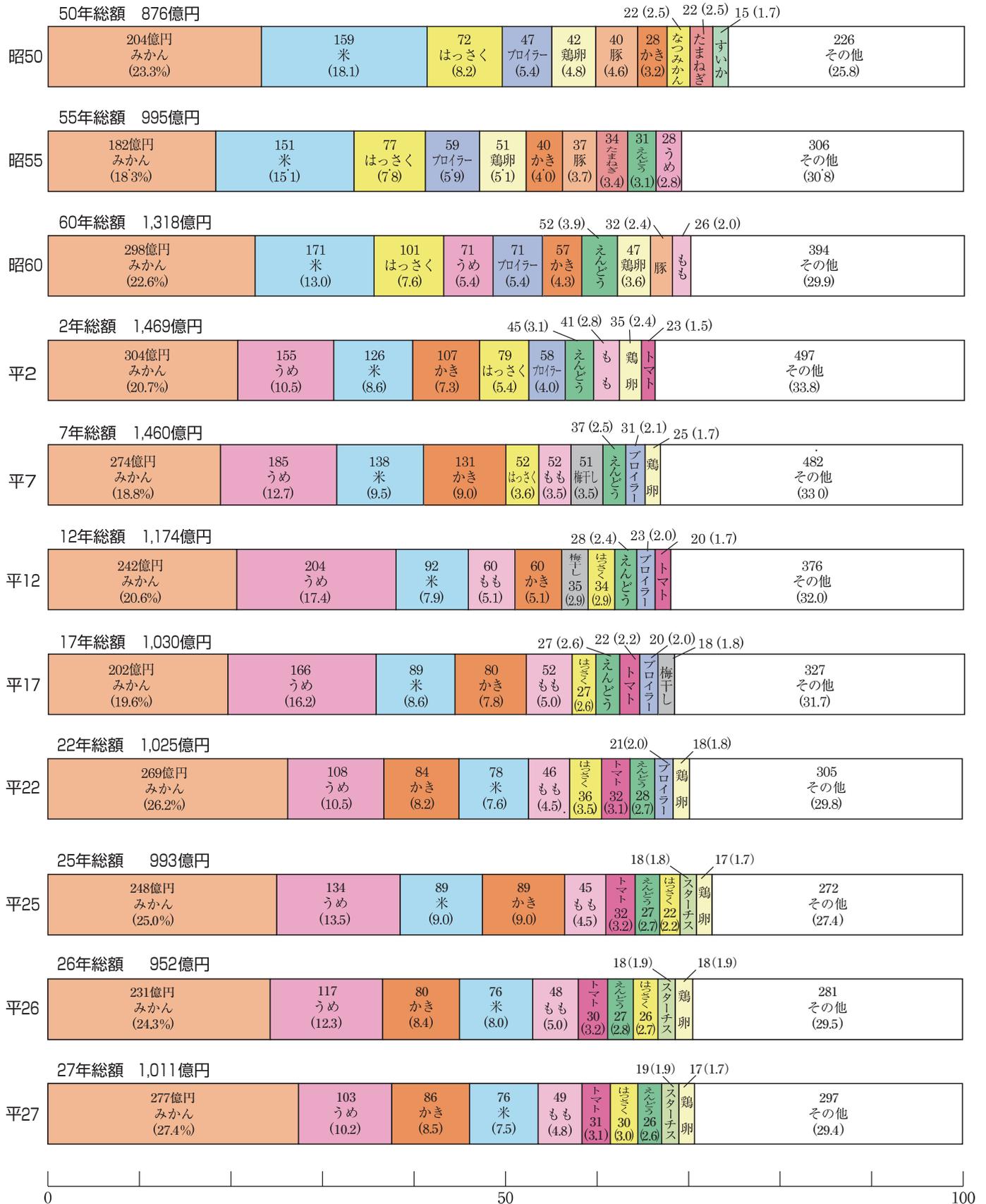
米 (760千万円)	和歌山市	紀の川市	橋本市	岩出市	御坊市	その他
	193 25.4%	105 13.8%	46 6.1%	44 5.8%	38 5.0%	334 43.9%
野菜 (1,620千万円)	和歌山市	印南町	紀の川市	御坊市	日高川町	その他
	295 18.2%	275 17.0%	260 16.1%	157 9.7%	110 6.8%	520 32.2%
果実 (6,270千万円)	紀の川市	有田川町	田辺市	海南市	かつらぎ町	その他
	1,175 18.7%	908 14.5%	704 11.2%	623 9.9%	527 8.3%	2,340 37.3%
花き (580千万円)	御坊市	紀の川市	印南町	田辺市	広川町	その他
	146 25.5%	80 14.0%	76 13.3%	68 11.9%	45 7.9%	157 27.4%

0 50 100

(農林水産統計年報)

農産物産出額上位10品目の推移

平成27年の農産物産出額を品目別にみると、「うめ」と「みかん」で全体の約38%を占めており、1位みかん、2位うめ、3位かき、4位米、5位ももとなっている。



6) 農業農村整備事業の基盤整備状況

農業農村整備事業における基盤の整備状況は、畑の農道整備53.1%、かんがい施設整備32.1%、区画整理6.5%で田の区画整理は16.2%となっている。整備済みの農業水利施設については、本格的な保全対策を進めています。

1 畑（果樹園・普通畑）の整備状況

項目	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
畑 面 積 (ha)		25,100	24,800	24,600	24,500	24,400	24,300	24,200	23,900
農 道 整 備 済 面 積 (ha)		12,204	12,253	12,344	12,348	12,359	12,458	12,496	12,695
整 備 率 (%)		48.6	49.4	50.2	50.4	50.7	51.3	51.6	53.1
畑地かんがい施設整備済み面積 (ha)		7,501	7,501	7,501	7,501	7,501	7,552	7,662	7,676
整 備 率 (%)		29.9	30.2	30.5	30.6	30.7	31.1	31.7	32.1
区 画 整 理 済 面 積 (ha)		1,520	1,520	1,525	1,525	1,539	1,551	1,551	1,562
整 備 率 (%)		6.1	6.1	6.2	6.2	6.3	6.4	6.4	6.5

- ・農道整備済みとは、末端農道が整備された畑
- ・畑地かんがい施設整備済みとは、スプリンクラー等の施設が整備されている畑、及び、水源が確保され必要に応じて散水が可能な畑
- ・区画整理には、農地造成を含む

2 田の整備状況

項目	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
田 面 積 (ha)		10,900	10,700	10,600	10,500	10,300	10,300	10,100	9,870
区 画 整 理 済 面 積 (ha)		1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,601	1,601	1,601
整 備 率 (%)		14.6	14.8	14.8	15.1	15.4	15.5	15.9	16.2

- ・区画整理には、30a未満の小区画を含む。

3 土地改良施設の整備状況

項目	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
農 業 水 利 施 設 延 長 (km)		682	682	682	682	682	682	682	682
保 全 対 策 済 延 長		24	40	50	52	68	79	95	101
た め 池 の 箇 所 数		5,566	5,566	5,566	5,453	5,453	5,453	5,453	5,453
整 備 済 箇 所 数		1,115	1,136	1,163	1,177	1,213	1,226	1,250	1,280
整 備 率 (%)		20.0	20.4	20.5	21.0	22.2	22.5	22.9	23.5
農 業 集 落 排 水 整 備 対 象 人 口 (人)		61,878	45,003	45,921	45,321	44,781	44,425	44,188	42,940
整 備 済 人 口		43,302	43,250	43,527	43,395	42,859	42,492	42,252	41,011
整 備 率 (%)		70.0	96.1	94.8	95.8	95.7	95.6	95.6	95.5
広 域 農 道 整 備 済 延 長 (km)		66.9	68.3	68.9	69.8	70.4	71.5	72.1	73.1

- ・農業水利施設延長は、県営事業以上で造成された幹線施設延長
- ・広域農道の整備済み延長は供用開始済みの延長

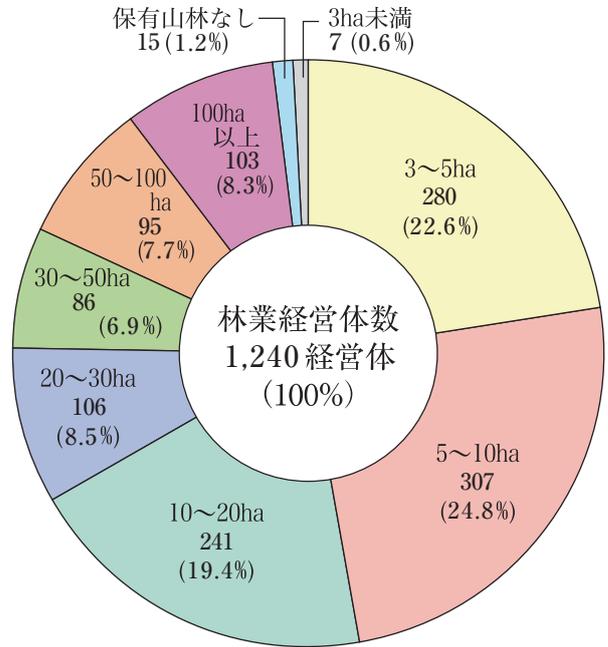
2 林業部門

1) 林業を担う経営体（林業経営体）

本県の林業経営体数は、1,240経営体となっており、保有山林規模別では、10ha以下の経営体が総数の49%を占め、規模の小さな経営体が多い。

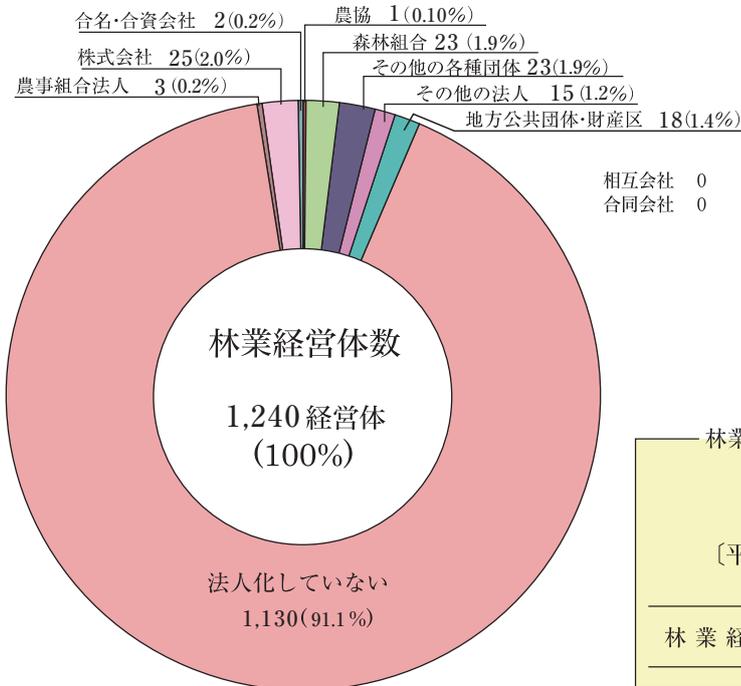
また、組織形態別では、法人化していない経営体が91%を占めている。

保有山林規模別林業経営体数



(2015年農林業サンセス)

組織形態別経営体数



(2015年農林業サンセス等)

林業経営体数

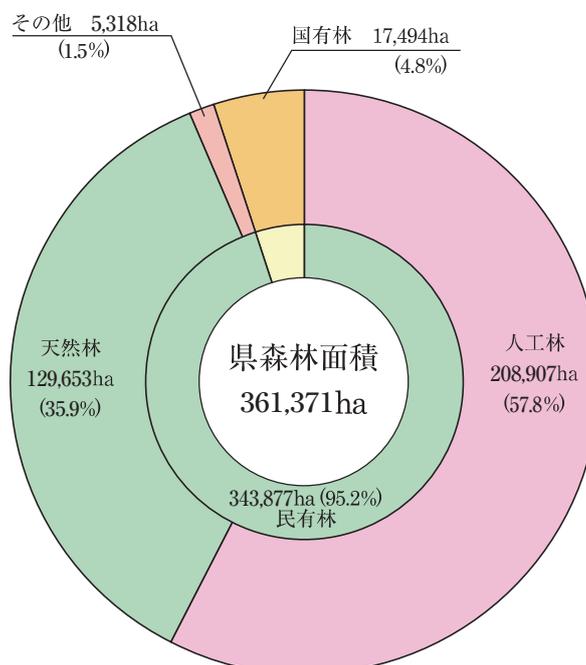
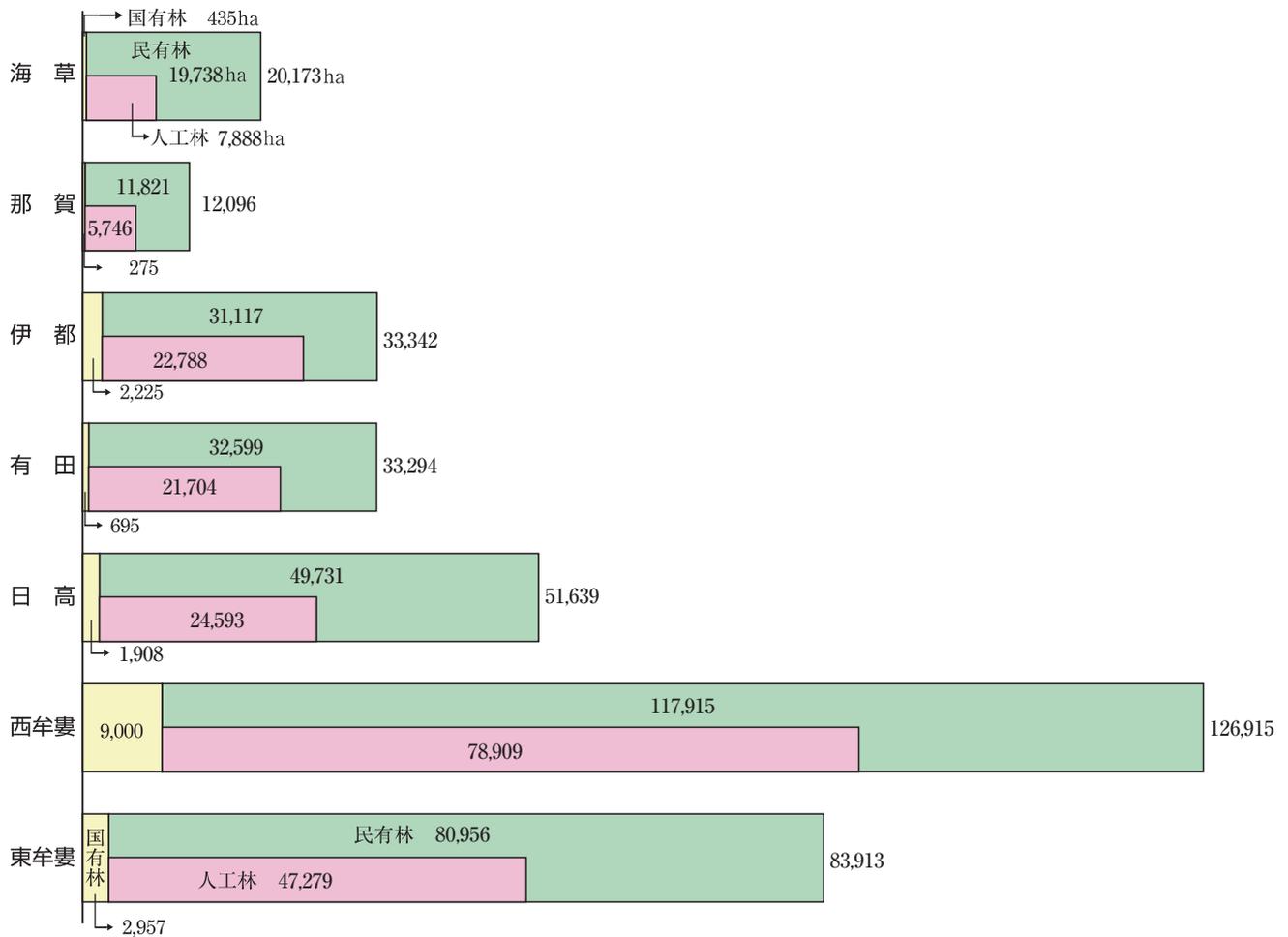
〔平27〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア (%)	県名	県名
林業経営体数	87,284	1,240	33	1.4	北海道	岩手岐阜

(2015年農林業サンセス)

2) 森林資源・林業生産基盤

地域別・森林面積（平28.4.1現在）

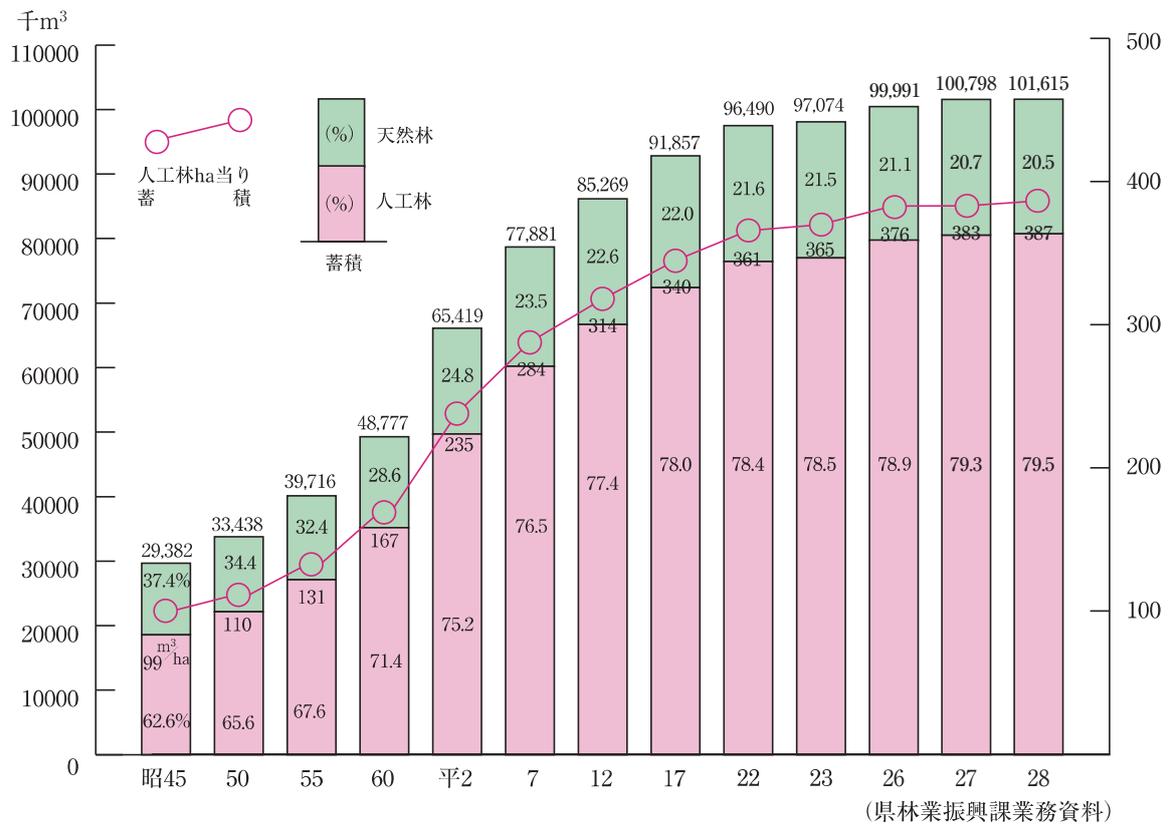
県の森林面積361,371haのうち、国有林は4.8%、民有林は95.2%です。県の森林面積の57.8%が人工林です。



(県林業振興課業務資料)

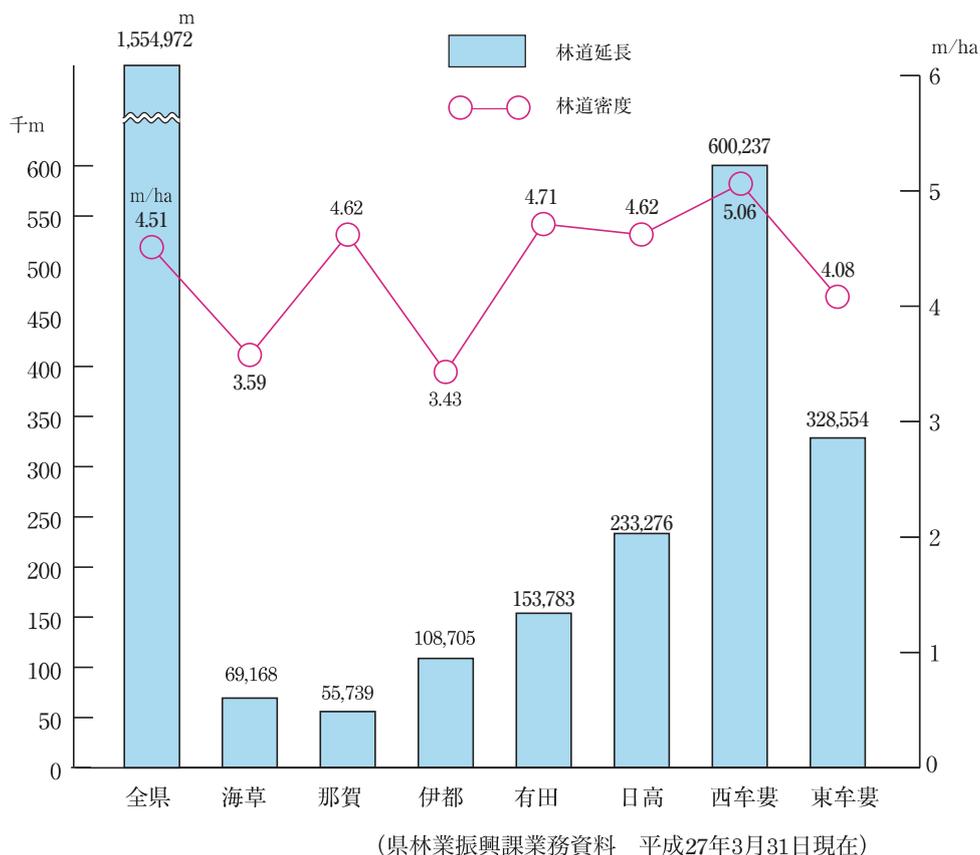
森林資源（民有林蓄積）の推移（地域森林計画対象森林：343,345ha）

戦後植林された森林資源が成熟しつつある。



地域別民有林林道延長及び林道密度（平27.3.31現在）

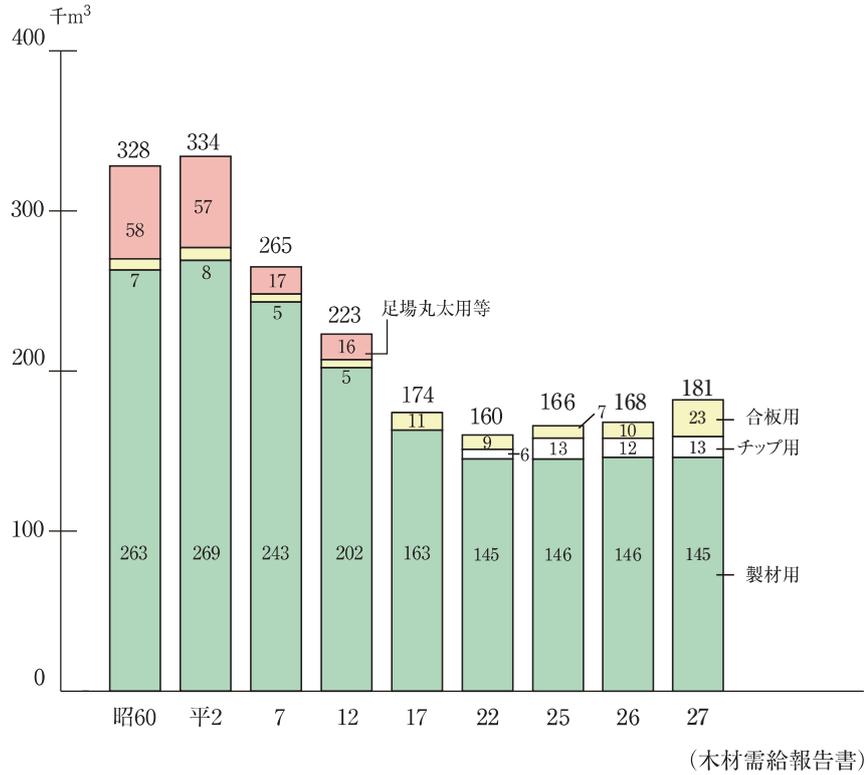
生産コストの縮減をはかるため、林道密度を高める必要がある。



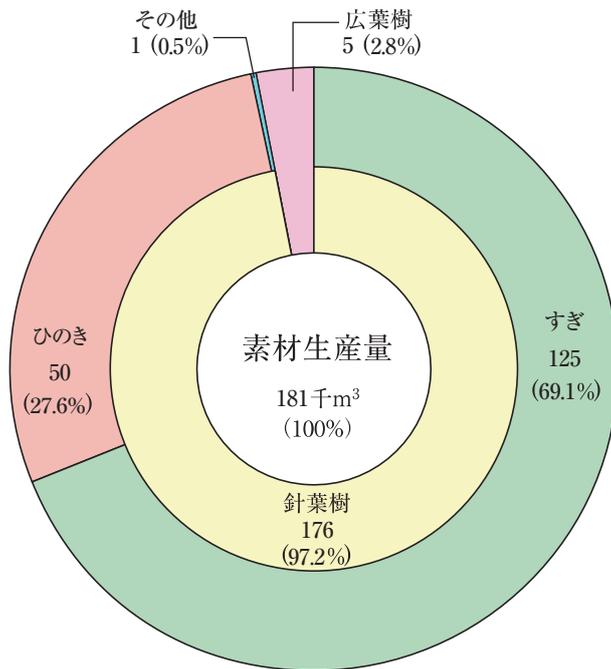
3) 林業生産

近年の木材生産活動は木材価格の低迷等から停滞している。
 一方、最近では輸入製品価格の高騰などから、国産材の需要が高まりつつある。

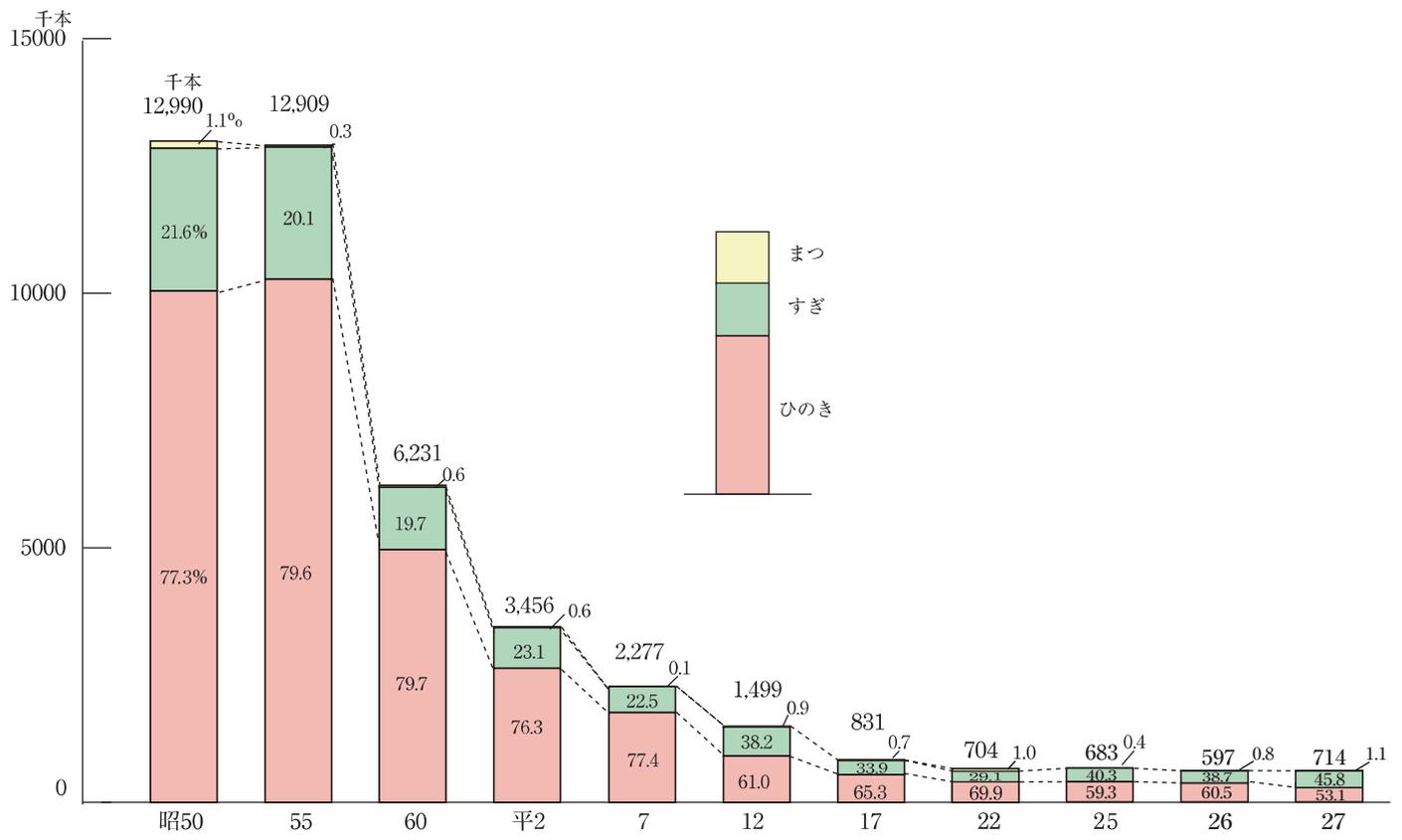
用途別素材生産量の推移



樹種別素材生産量 (平27)



山用種苗生産本数の推移



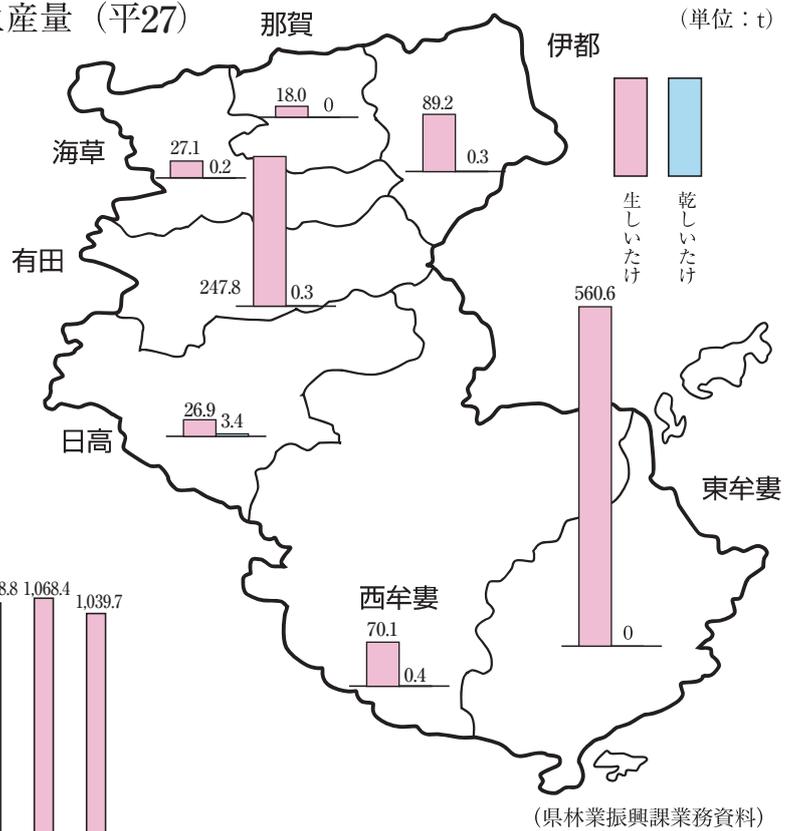
(県森林整備課業務資料)

素材生産量

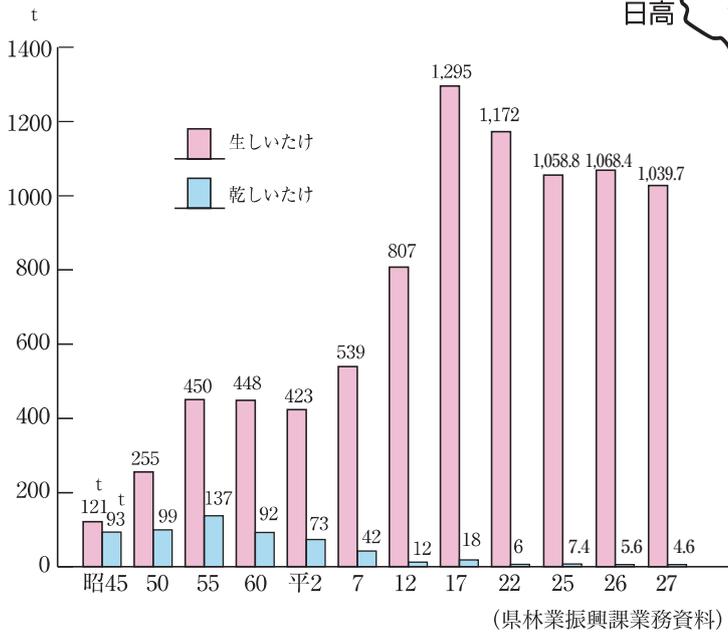
[平27]		全国	和歌山県		1位	2位	3位	
		実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
素材生産量	合計(千m ³)	20,049	181	28	0.9	北海道	宮崎	岩手
	針葉樹	17,815	176	27	1.0	北海道	宮崎	岩手
	すぎ	11,226	125	22	1.1	宮崎	秋田	大分
	ひのき	2,364	50	18	2.1	岡山	愛媛	高知
	広葉樹	2,236	5	40	0.2	北海道	岩手	広島

(木材需給報告書)

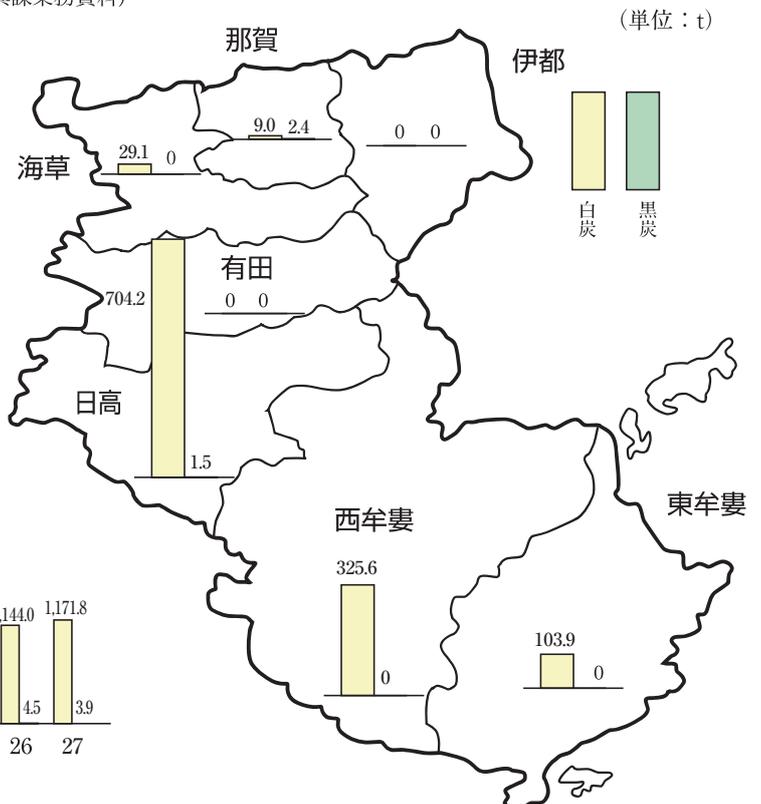
地域別・しいたけ生産量（平27）



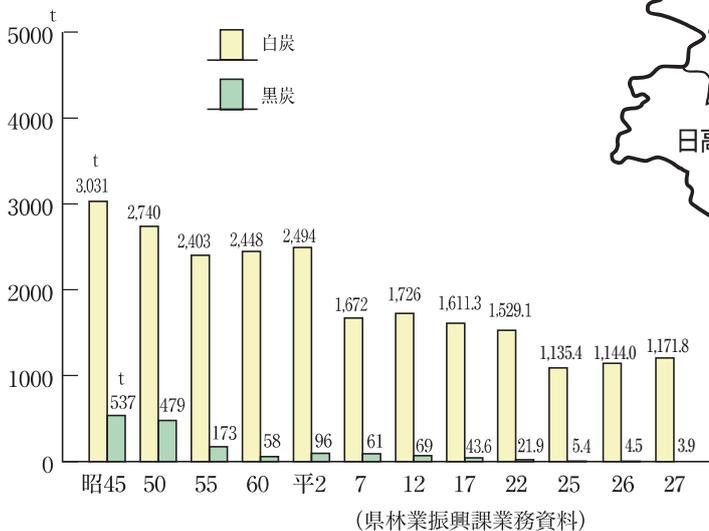
しいたけ生産量の推移



地域別・木炭生産量（平27）

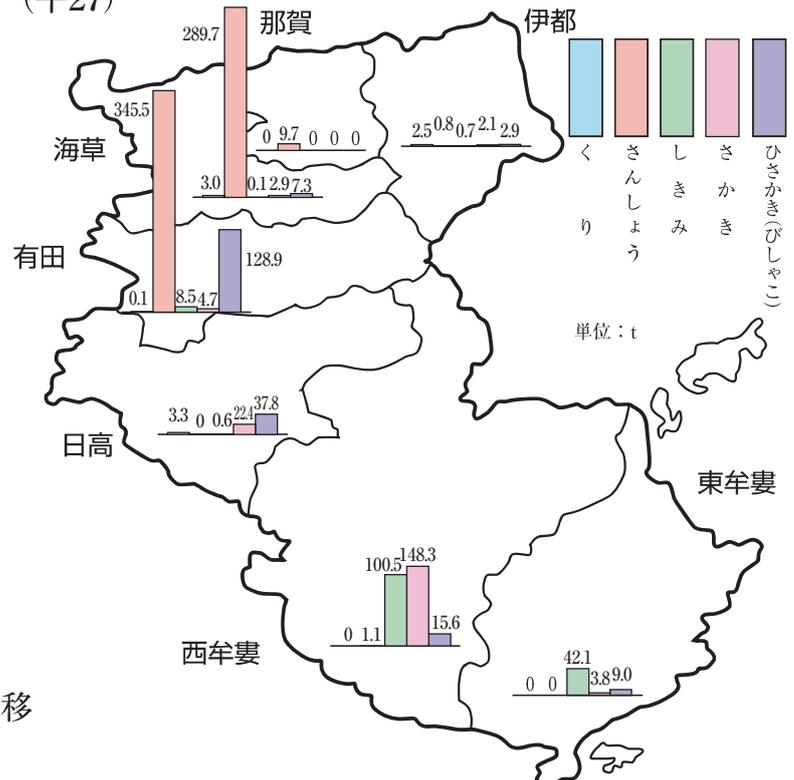


木炭生産量の推移

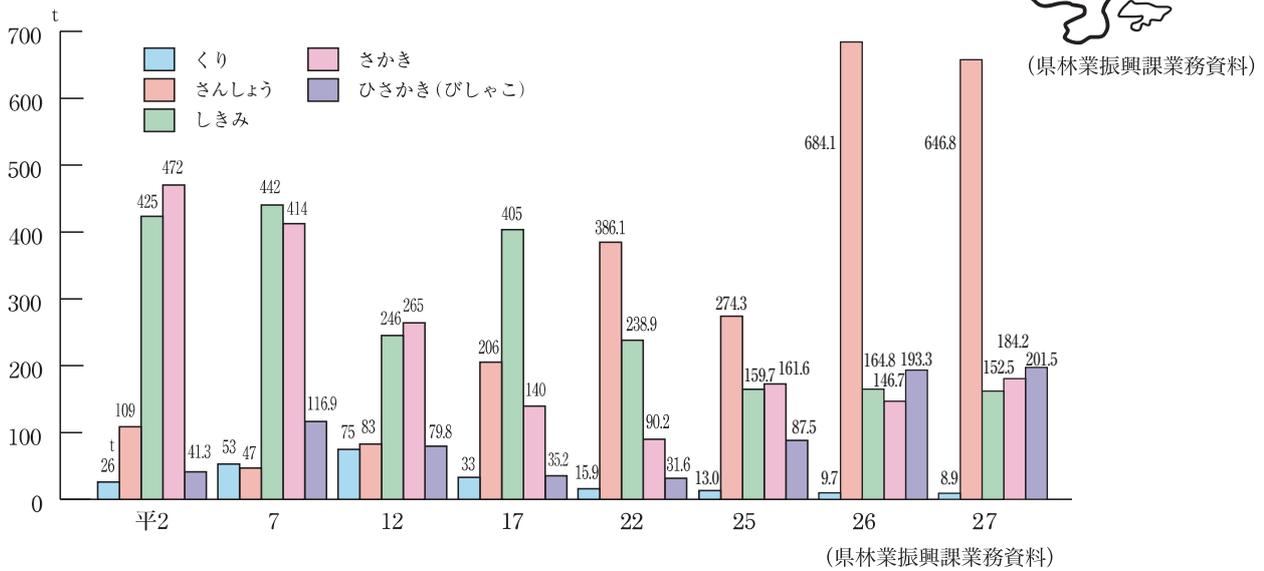


山村での主収入であった林業が低迷する中、副収入源であった特用林産物の収入に占める割合が増加してきた。

地域別・その他特用林産物生産量（平27）



その他の特用林産物生産量の推移



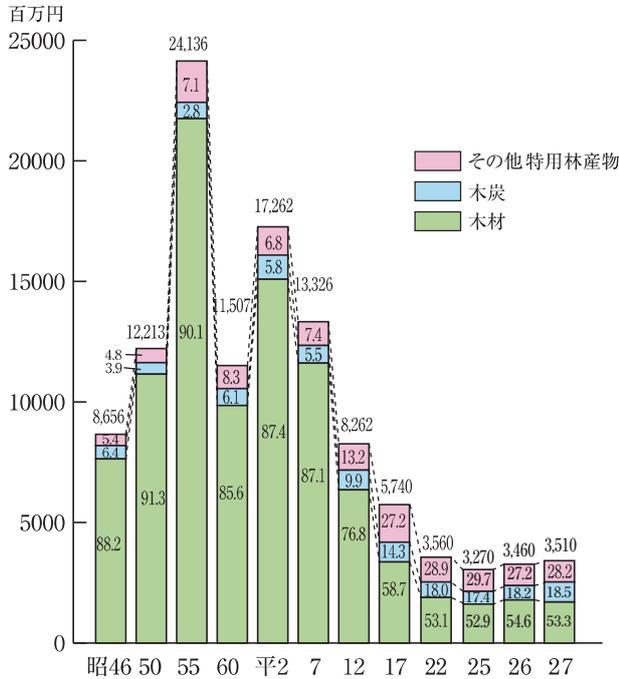
特 用 林 産 物 生 産 量							
〔平27〕 (t)	全 国	和 歌 山 県			1 位	2 位	3 位
	実 数	実 数	順 位	シェア(%)	県名	県名	県名
乾しいたけ	2,630.7	4.6	30	0.2	大分	宮崎	熊本
生しいたけ	68,284.8	1,039.7	20	1.5	徳島	北海道	岩手
白炭	3,182.6	1,171.8	2	36.8	高知	和歌山	宮崎
黒炭	7,162.8	3.9	46	0.05	岩手	北海道	熊本

(特 用 林 産 基 礎 資 料)

4) 林業所得と林業産出額

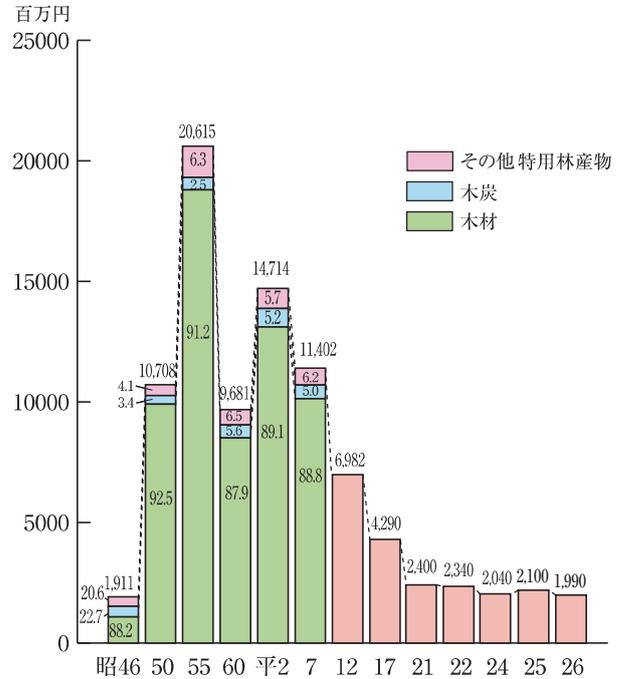
素材価格がピークであった昭和55年を契機に年々減少してきている。

林業産出額の推移



(生産林業所得統計報告書、H27林業産出額)

生産林業所得額の推移



(生産林業所得統計報告書)

※H10から内訳の計上がされていない
※H27のデータなし

※枠内の数字はパーセントを表す

生産額

〔平27〕 (千万円)		全 国	和 歌 山 県		1 位	2 位	3 位	
		実 数	実 数	順 位	シェア(%)	県名	県名	県名
林 業 産 出 額	総 計	43,281	351	30	0.8	長 野	北 海 道	新 潟
	木 材 生 産	21,674	187	31	0.9	北 海 道	宮 崎	岩 手
	特 用 林 産 物	21,607	164	27	0.8	長 野	新 潟	北 海 道

(H27林業産出額)

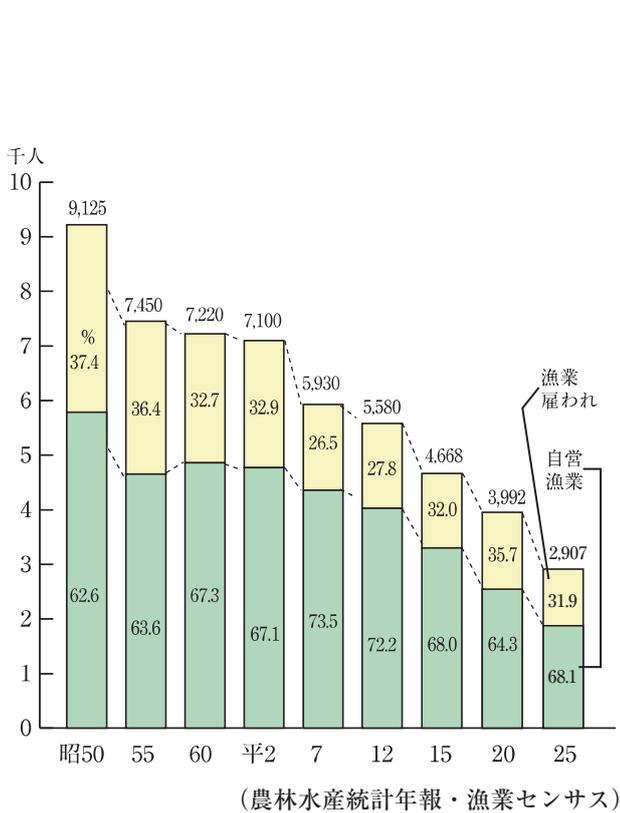
3 水産部門

1) 水産業を担う人々

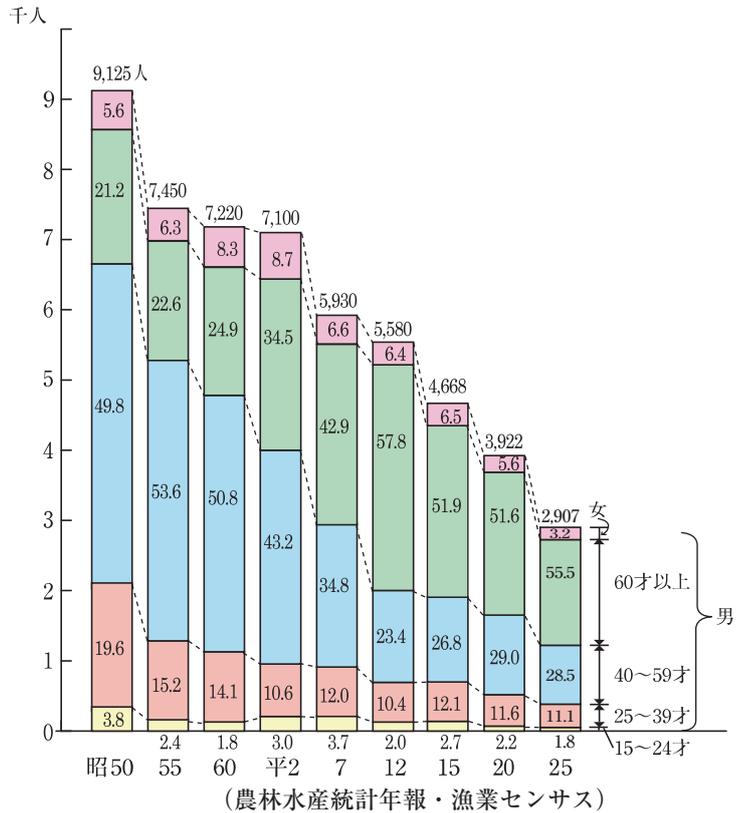
漁業就業者数は減少傾向で推移しており、平成25年は2,907人である。

また、自営漁業就業者のうち年齢別では60才以上の男子就業者が55.5%を占め、高齢化が進んでいる。

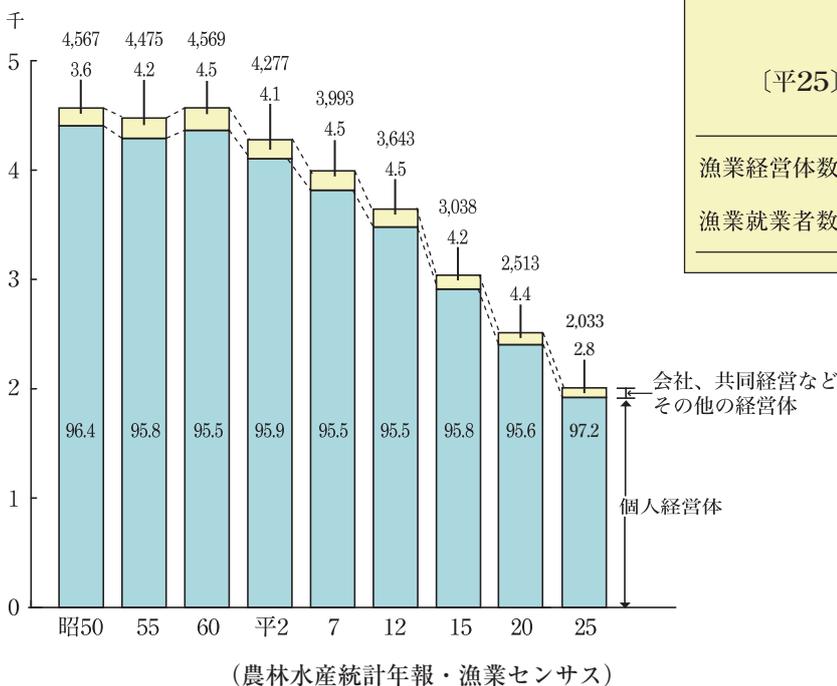
漁業就業者数の推移



年齢区分別漁業就業者数の推移



漁業経営体数の推移



漁業経営体数等

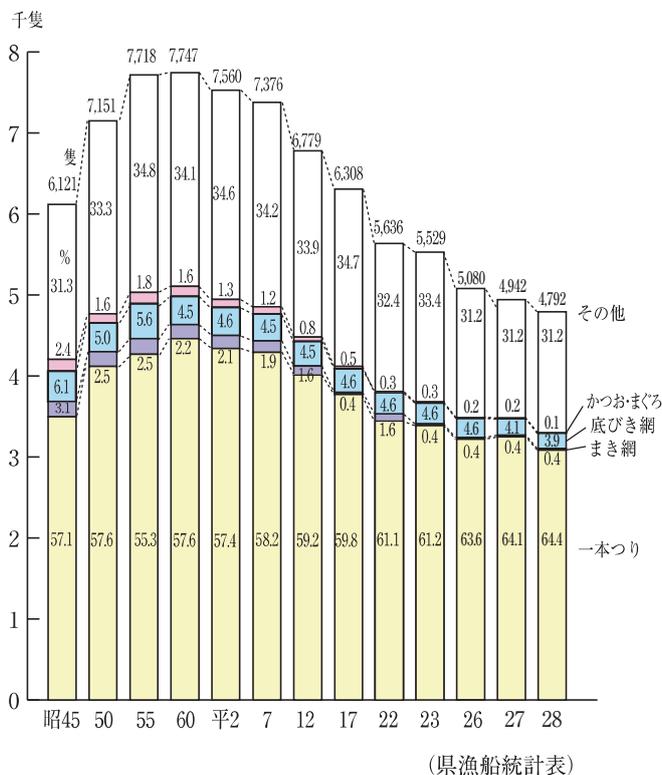
〔平25〕	全国	和歌山県	1位	2位	3位
	実数	実数 順位	シェア (%)	県名	県名 県名
漁業経営体数	94,507	2,033 20	2.2	北海道	長崎 青森
漁業就業者数(人)	180,985	2,907 23	1.6	北海道	長崎 青森

(2013年漁業センサス)

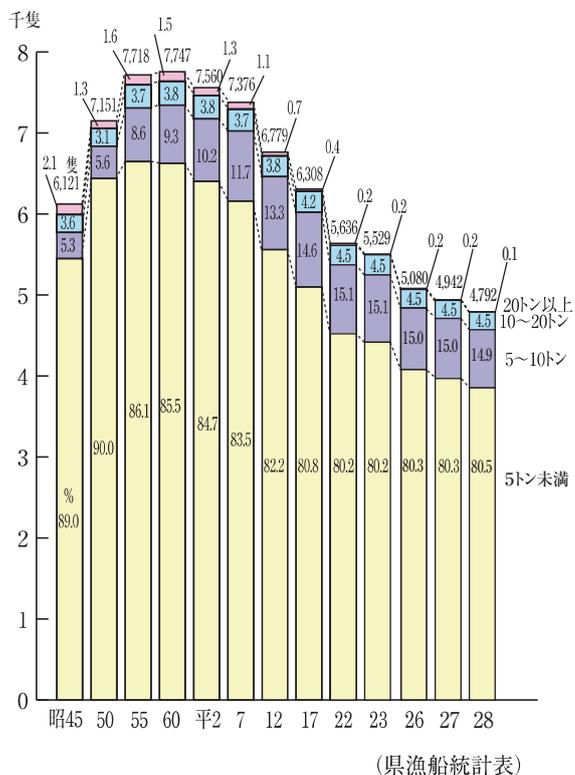
2) 水産業の基盤

海水動力漁船数は昭和60年をピークに減少傾向にあり、平成28年12月末日現在では4,792隻となっている。漁業種別では「一本つり」が64.4%、「底びき網」3.9%である。トン数別では5t未満の小型漁船が80.5%と大半を占めている。

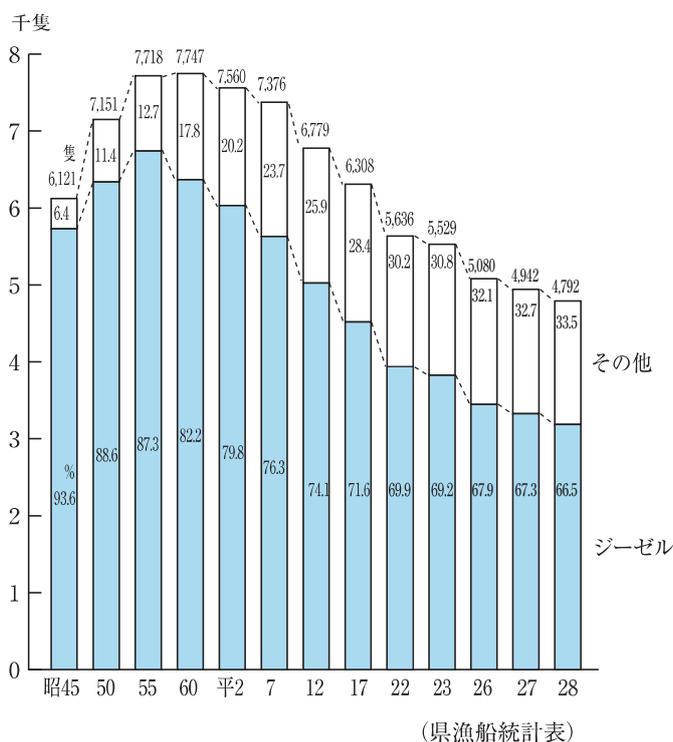
漁業種別海水動力漁船数の推移



トン数階層別海水動力漁船数の推移



機関種別海水動力漁船数の推移



漁港の現況

本県には、94港（全国2,866港）の漁港（平成28年4月1日現在）と、118地区（全国4,156地区）の漁港背後集落（平成26年度末時点）がある。また、漁港の種類は、その利用範囲によって下表のように分類されている。

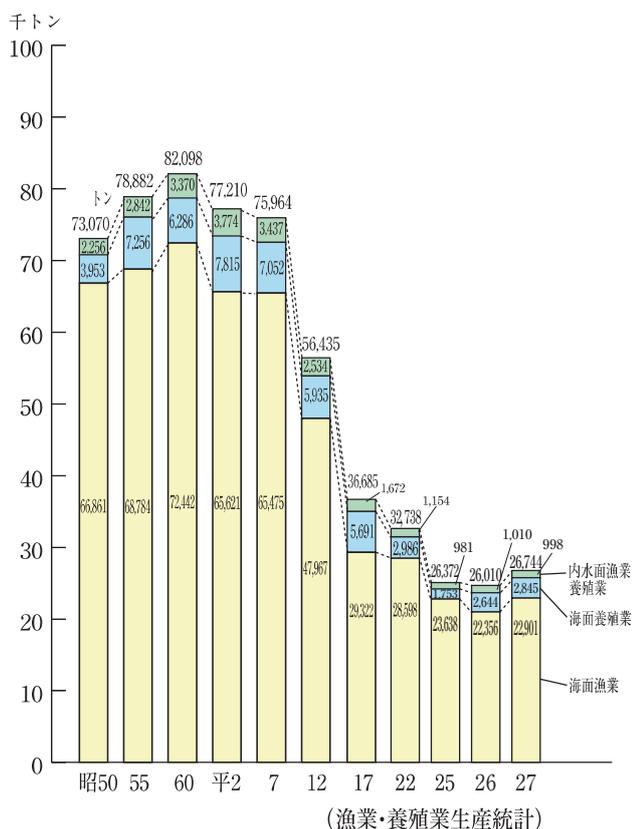
種別	漁港合計	分類の説明
第1種漁港	77	利用範囲が地元の漁業を主とするもの
第2種漁港	11	利用範囲が1種より広く3種に属さないもの
第3種漁港	4	利用範囲が全国的なもの
第4種漁港	2	漁船の避難上特に必要なもの
港合計	94	

3) 水産業の生産

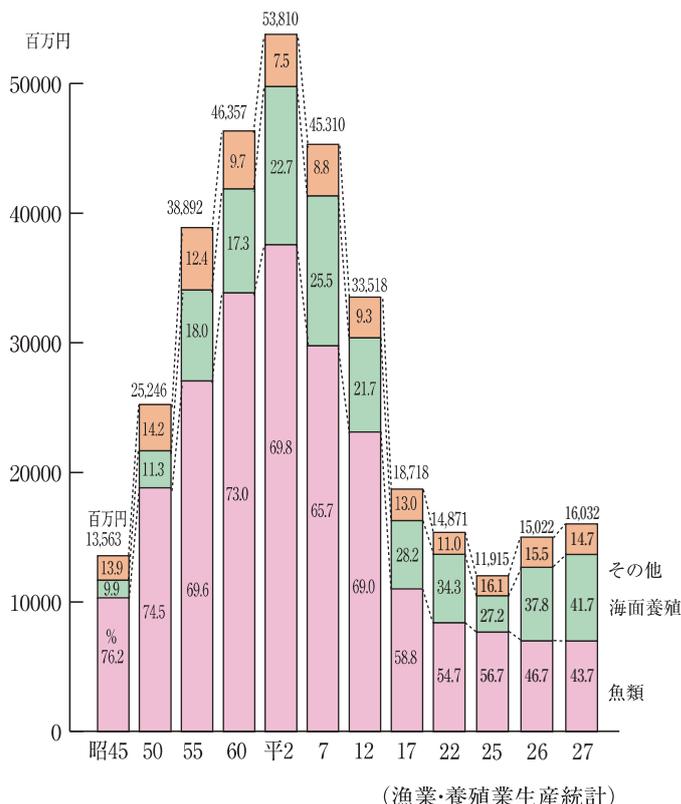
漁業・養殖業の生産量は昭和61年の88,108tをピークに減少傾向にあり、平成27年は26,744tとなっている。

海面漁業・養殖業産出額は平成2年をピークに減少傾向であり、平成27年は養殖くろまぐろの産出額が増加した影響等により、160億32百万円と前年より増加したものの、ピーク時の29.8%となっている。

漁業・養殖業部門別生産量の推移



海面漁業・養殖業産出額の推移



生産量

〔平27〕 (t)	全国				和歌山県		
	実数	実数	順位	シェア(%)	1位 県名	2位 県名	3位 県名
海面漁業	3,550,003	22,901	27	0.65	北海道	長崎	茨城
魚類	2,867,065	21,523	27	0.75	北海道	長崎	茨城
えび・かに・いか・たこ	244,735	616	35	0.25	北海道	青森	長崎
貝類	291,605	65	36	0.02	北海道	愛知	千葉
海藻類	94,084	471	14	0.50	北海道	愛知	青森
海面養殖業	1,069,017	2,845	24	0.27	北海道	広島	青森

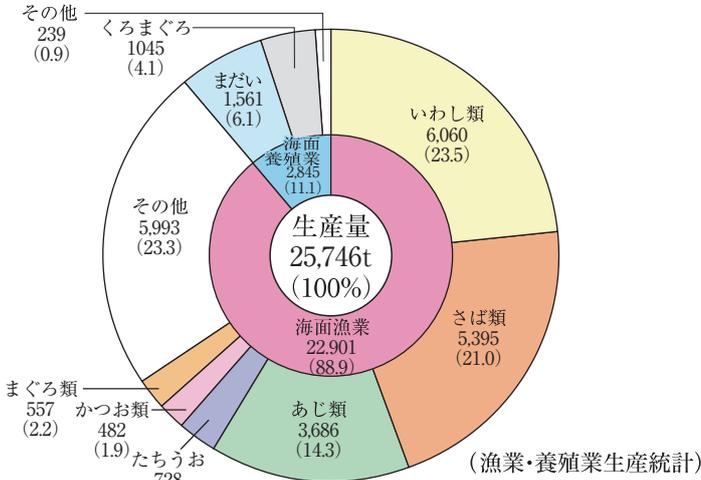
産出額

〔平27〕 (百万円)	全国				和歌山県		
	実数	実数	順位	シェア(%)	1位 県名	2位 県名	3位 県名
海面漁業	1,000,861	9,351	28	0.93	北海道	長崎	静岡
海面養殖業	486,903	6,681	19	1.37	北海道	愛媛	鹿児島

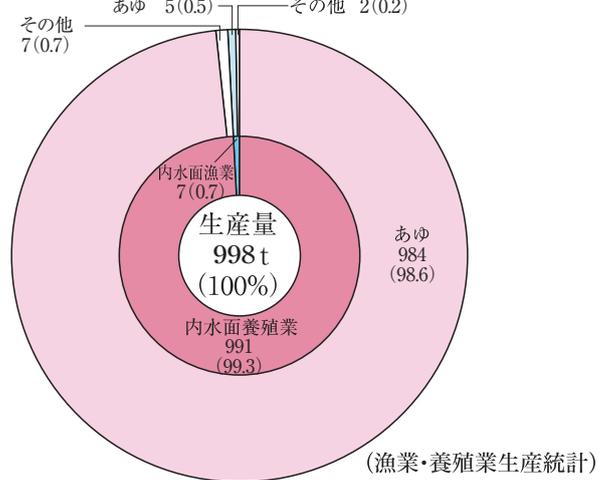
4) 主な魚種別漁獲量・産出額の推移

平成27年の魚類別の生産量は、海面漁業では、いわし類26.5%、さば類23.6%、あじ類16.1%、たちうお3.2%となっている。海面養殖業では、まだいが54.9%、くろまぐろが36.7%を占め、内水面養殖業では、あゆが99.3%となっている。

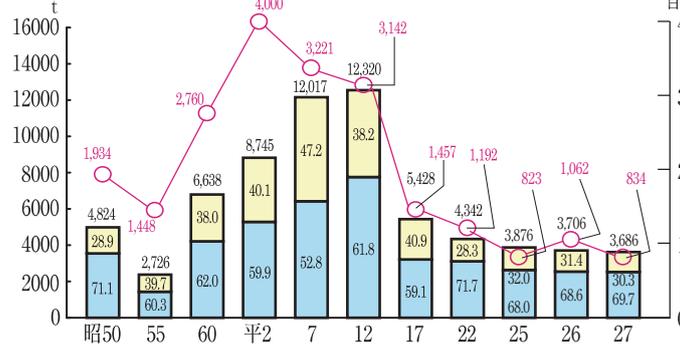
海面漁業、養殖業魚種別生産量（平27）



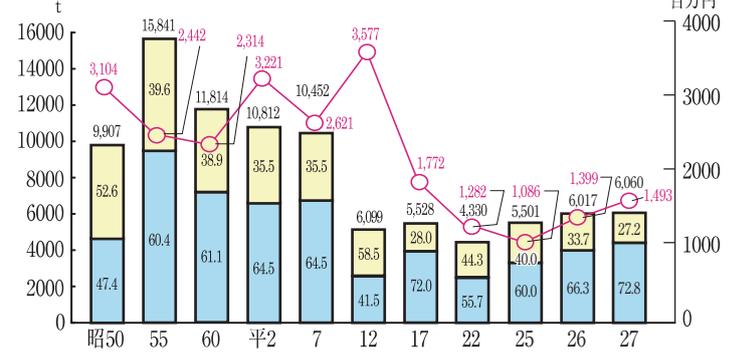
内水面漁業、養殖業魚種別生産量（平27）



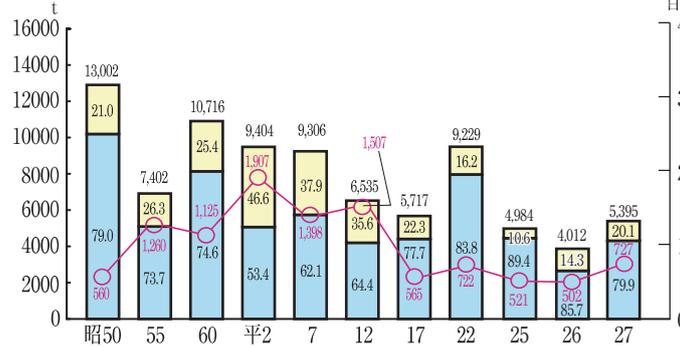
あじ類



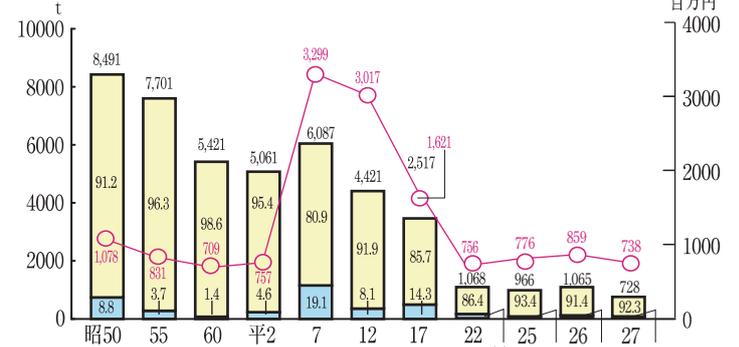
いわし類



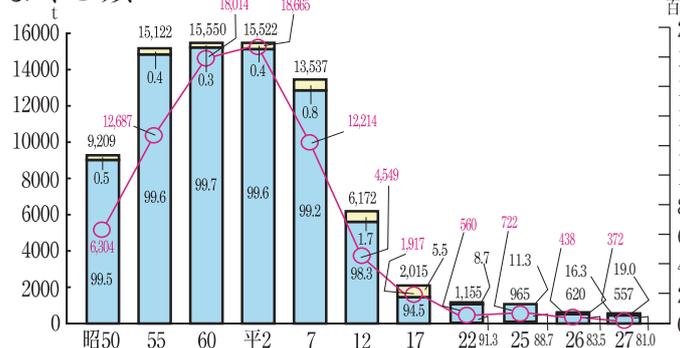
さば類



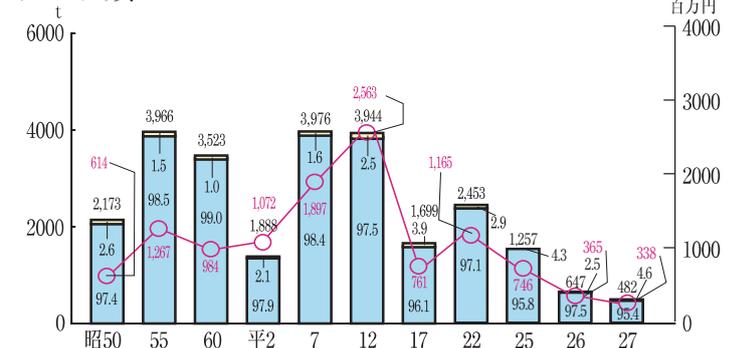
たちうお



まぐろ類



かつお類



魚獲量 瀬戸内海区 太平洋南区

産出額 (百万円)

※「x」は統計法に基づく秘密保護のため、公表されていないものです。

(漁業・養殖業生産統計)

Ⅲ 農林水産関係施策を行っている主な課室

農 林 水 産 部

課 室 名		業 務 概 要	電話番号	メールアドレス
農林水産政策局	農林水産総務課	農林水産振興施策の総合的企画・調整・検査	073-441-2862	e0701002@pref.wakayama.lg.jp
	研究推進室	農林水産関連試験研究の統括	073-441-2997	e0701003@pref.wakayama.lg.jp
	食品流通課	農産物をはじめとする県産品の販路拡大・流通対策、輸出対策	073-441-2817	e0717001@pref.wakayama.lg.jp
	農業農村整備課	土地改良法関係、施設管理、農業農村整備の計画・調整、農業基盤・農村環境・農地の保全施設等の整備	073-441-2951	e0705002@pref.wakayama.lg.jp
農業生産局	果樹園芸課	農産物の生産振興、農業の施設整備支援、都市農村交流の推進、食育の推進	073-441-2900	e0703001@pref.wakayama.lg.jp
	農業環境・鳥獣害対策室	環境保全型農業、肥料・農薬の適正使用、鳥獣害対策、適正狩猟の推進	073-441-2905	e0703002@pref.wakayama.lg.jp
	畜産課	畜産業振興、家畜伝染病予防・防疫畜産環境保全整備、家畜衛生の推進	073-441-2920	e0704001@pref.wakayama.lg.jp
	経営支援課	農協等の指導、金融支援、農業の担い手確保・育成、農地の活用、農業技術・経営の普及指導	073-441-2881	e0709001@pref.wakayama.lg.jp
林業局・森林局	林業振興課	林業振興のための企画・指導、紀州材の需要拡大山村資源の活用、山村地域の生活環境整備	073-441-2960	e0706001@pref.wakayama.lg.jp
	森林整備課	森林の造成・保全、山地災害の防止、企業の森、緑化促進、紀の国森づくり基金の活用	073-441-2972	e0707001@pref.wakayama.lg.jp
水産局	水産振興課	水産業振興のための企画・指導・支援等	073-441-3000	e0710001@pref.wakayama.lg.jp
	資源管理課	水産資源の管理・保護、漁業取締・調整・許可等	073-441-3010	e0715001@pref.wakayama.lg.jp

他部局関係課室

企 画 部

課 室 名		業 務 概 要	電話番号	メールアドレス
地域振興局	移住定住推進課	半島地域の振興促進 過疎地域の自立促進 移住定住の推進	073-441-2426	e0222001@pref.wakayama.lg.jp

環 境 生 活 部

課 室 名		業 務 概 要	電話番号	メールアドレス
県民局	食品・生活衛生課	食の安全・安心の確保、生活衛生関係営業指導、動物愛護及び管理の推進、水道の整備及び管理指導	073-441-2635	e0316001@pref.wakayama.lg.jp

県 土 整 備 部

課 室 名		業 務 概 要	電話番号	メールアドレス
県土整備政策局	検査・技術支援課	農林水産関連の工事検査	073-441-3260	e0816001@pref.wakayama.lg.jp
道路局	道路建設課	道路（農林道を含む）の整備	073-441-3097	e0802001@pref.wakayama.lg.jp
河川・下水道局	下水道課	汚水処理施設の整備促進（農業集落排水を含む）	073-441-3203	e0810001@pref.wakayama.lg.jp
港湾空港局	港湾漁港整備課	漁港・漁港海岸の整備、漁村環境の整備	073-441-3023	e0825001@pref.wakayama.lg.jp



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農産物												
みかん	[Orange bar]								[Orange bar]			
うめ					[Red bar]							
かき	[Orange bar]								[Orange bar]			
もも						[Red bar]						
えんどうまめ	[Green bar]									[Green bar]		
しょうが					[Orange bar]	[Orange bar]			[Orange bar]	[Orange bar]		
林産物												
さんしょう					[Green bar]	[Green bar]						
みょうが							[Red bar]	[Red bar]				
せんりょう											[Red bar]	[Red bar]
水産物												
まぐろ	[Dark blue bar]											[Dark blue bar]
かつお		[Dark blue bar]										
たちうお						[Grey bar]	[Grey bar]					
いせえび	[Red bar]	[Red bar]									[Red bar]	[Red bar]

県の花

うめ



梅はバラ科に属し、古くから紀南地方を中心に栽培されています。2月から3月にかけて美しい花を咲かせ、香りもすばらしく、春を告げる花として親しまれています。

県の鳥

めじろ



メジロ科、日本特有の小鳥で本県に多く、古くから県民に親しまれています。ウグイス、ヤマガラなどとともに、保護鳥に指定されています。

県の木

うばめがし



ブナ科の常緑樹で、紀南地方に特に多く見られます。高温多湿を好みますが、耐乾性も強く生命力の強い木として知られています。紀州備長炭の原木です。

県の魚

まぐろ



サバ科に属し、なかでもクロマグロが代表的。樺太、北海道以南、フィリピンにまで分布し、刺身として極めて美味でトロは有名。クロマグロは全長3mに達します。